

合に加え、以下乳糖ブイヨンの製法に従って製する。

乳糖ブイヨン、3倍濃厚 水 1000 mL の代わりに 330 mL を用いて製した普通ブイヨンに乳糖一水和物を 1.5 % の割合に加え、以下乳糖ブイヨンの製法に従って製する。ただし、発酵管には 25 mL ずつ分注する。

ニュートラルレッド $C_{15}H_{17}N_4Cl$ [K 8729 : 1992, 特級]

ニュートラルレッド試液 ニュートラルレッド 0.1 g を酢酸(100)に溶かし、100 mL とする。

尿素 H_2NCONH_2 [K 8731, 特級]

二硫化炭素 CS_2 [K 8732, 特級] 火気を避け、冷暗所で密栓して保存する。

二硫酸カリウム $K_2S_2O_7$ [K 8783, 特級]

ニンヒドリン $C_9H_8O_4$ [K 8870, 特級]

ニンヒドリン・アスコルビン酸試液 ニンヒドリン・L-アスコルビン酸試液 見よ。

ニンヒドリン・L-アスコルビン酸試液 ニンヒドリン 0.25 g 及び L-アスコルビン酸 0.01 g を水に溶かし、50 mL とする。用時製する。

ニンヒドリン・塩化スズ(II)試液 クエン酸一水和物 21.0 g を水に溶かし、200 mL とした液に、水酸化ナトリウム試液を加えて pH 5.6 ± 0.2 に調整した後、水を加えて 500 mL とし、更に塩化スズ(II)二水和物 1.3 g を加えて溶かす。この液 50 mL にニンヒドリンの 2-メトキシエタノール溶液(2 → 50) 50 mL を加える。用時製する。

ニンヒドリン・塩化第一スズ試液 ニンヒドリン・塩化スズ(II)試液 見よ。

ニンヒドリン・クエン酸・酢酸試液 クエン酸一水和物 70 g を水 500 mL に溶かし、酢酸(100) 58 mL、水酸化ナトリウム溶液(21 → 50) 70 mL 及び水を加えて 1000 mL とする。この液 100 mL にニンヒドリン 0.2 g を溶かす。

ニンヒドリン試液 ニンヒドリン 0.2 g を水に溶かし、10 mL とする。用時製する。

0.2 % ニンヒドリン・水飽和1-ブタノール試液 ニンヒドリン 2 g に水飽和1-ブタノールを加えて 1000 mL とする。

ニンヒドリン・ブタノール試液 ニンヒドリン 0.3 g を1-ブタノール 100 mL に溶かし、酢酸(100) 3 mL を加える。

ニンヒドリン・硫酸試液 ニンヒドリン 0.1 g を硫酸 100 mL に溶かす。用時製する。

熱分析用 α-アルミナ α-アルミナ、熱分析用 見よ。

熱分析用インジウム インジウム、熱分析用 見よ。

熱分析用スズ スズ、熱分析用 見よ。

熱分析用ニッケル ニッケル、熱分析用 見よ。

濃クロモトロープ酸試液 クロモトロープ酸試液、濃 見よ。

濃クロモトロープ酸試液 クロモトロープ酸試液、濃 見よ。

濃厚乳糖ブイヨン、2倍 乳糖ブイヨン、2倍濃厚 見よ。

濃厚乳糖ブイヨン、3倍 乳糖ブイヨン、3倍濃厚 見よ。

濃ジアゾベンゼンスルホン酸試液 ジアゾベンゼンスルホン酸試液、濃 見よ。

濃ヨウ化カリウム試液 ヨウ化カリウム試液、濃 見よ。

ノニル酸ワニリルアミド $C_{17}H_{27}NO_3$ 白色の結晶性の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

純度試験 類縁物質 本品 0.01 g をメタノール 50 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 μ L につき、「トウガラシ」の成分含量測定法を準用し、液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液のノニル酸ワニリルアミド以外のピークの合計面積は標準溶液のノニル酸ワニリルアミドのピーク面積よりも大きくない。

バイカリン、薄層クロマトグラフ用 $C_{21}H_{18}O_{11} \cdot H_2O$ 淡黄色の粉末で、においはない。メタノールに極めて溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点：約 206 °C (分解)。

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 10 μ L につき、「オウゴン」の確認試験(2)を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。

ハイドロサルファイトナトリウム 亜ジチオン酸ナトリウム 見よ。

薄層クロマトグラフ用アミグダリン アミグダリン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用 2-アミノ-5-クロルベンゾフェノン 2-アミノ-5-クロルベンゾフェノン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用アルブチン アルブチン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用イミダゾール イミダゾール、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用塩化スキサメトニウム 塩化スキサメトニウム、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用塩化ベルベリン 塩化ベルベリン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用塩酸イソプロメタジン 塩酸イソプロメタジン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用塩酸1,1-ジフェニル-4-ピペリジノ-1-ブテン 塩酸1,1-ジフェニル-4-ピペリジノ-1-ブテン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用カプサイシン カプサイシン、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用[6]-ギングロール [6]-ギングロール、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用ギンセノシド Rg_1 ギンセノシド Rg_1 、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用グリチルリチン酸 グリチルリチン酸、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用(2-クロロフェニル)-ジフェニルメタノール (2-クロロフェニル)-ジフェニルメタノール、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用ゲニボシド ゲニボシド、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用ケノデオキシコール酸 ケノデオキシコール酸、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用ゲンチオピクロシド ゲンチオピクロシド、薄層クロマトグラフ用 見よ。

薄層クロマトグラフ用サイコサポニン a サイコサポニン a、

薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用シクロヘキシリアルアミン シクロヘキシリルアミン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用シザンドリン シザンドリン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ジシクロヘキシリウレア ジシクロヘキシリウレア, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ジメチルシリル化シリカゲル(蛍光剤入り) ジメチルシリル化シリカゲル(蛍光剤入り), 薄層クロマトグラフ用 見よ.
薄層クロマトグラフ用 2,6-ジメチル-4-(2-ニトロソフェニル)-3,5-ピリジンジカルボン酸ジメチルエステル 2,6-ジメチル-4-(2-ニトロソフェニル)-3,5-ピリジンジカルボン酸ジメチルエステル, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用臭化アレコリン 臭化アレコリン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用臭化水素酸スコボラミン 臭化水素酸スコボラミン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用臭化ダクロニウム 臭化ダクロニウム, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用シリカゲル シリカゲル, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用シリカゲル(蛍光剤入り) シリカゲル, 薄層クロマトグラフ用(蛍光剤入り) 見よ.
 薄層クロマトグラフ用シリカゲル(混合蛍光剤入り) シリカゲル, 薄層クロマトグラフ用(混合蛍光剤入り) 見よ.
 薄層クロマトグラフ用スウェルチアマリン スウェルチアマリン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用セルロース セルロース, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用セルロース(蛍光剤入り) セルロース, 薄層クロマトグラフ用(蛍光剤入り) 見よ.
 薄層クロマトグラフ用センノシド A センノシド A, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用チクセツサボニンIV チクセツサボニンIV, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ナリンギン ナリンギン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用バイカリーン バイカリーン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用バルバロイン バルバロイン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用プエラリン プエラリン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用フマル酸 フマル酸, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ペオニフロリン ペオニフロリン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ペオノール ペオノール, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ベルゲニン ベルゲニン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用ポリアミド ポリアミド, 薄層クロマトグラフ用 見よ.

薄層クロマトグラフ用ポリアミド(蛍光剤入り) ポリアミド,
 薄層クロマトグラフ用(蛍光剤入り) 見よ.
 薄層クロマトグラフ用メシル酸ジヒドロエルゴクリスチン メシル酸ジヒドロエルゴクリスチン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
薄層クロマトグラフ用 2-メチル-5-ニトロイミダゾール 2-メチル-5-ニトロイミダゾール, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
薄層クロマトグラフ用 3-O-メチルメチルドバ 3-O-メチルメチルドバ, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用リオチロニンナトリウム リオチロニンナトリウム, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用リトコール酸 リトコール酸, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用硫酸アトロピン 硫酸アトロピン, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
 薄層クロマトグラフ用レボチロキシンナトリウム レボチロキシンナトリウム, 薄層クロマトグラフ用 見よ.
白糖 C₁₂H₂₂O₁₁ [医薬品各条, 第二部「精製白糖」]
馬血清 ウマから血液を採血してフラスコにとり, 血液を凝固させ, 血清が分離するまで放置する. 分離した血清はガラス容器に入れ, -20 °C で凍結保存する.
発煙硝酸 硝酸, 発煙 見よ.
発煙硫酸 硫酸, 発煙 見よ.
ハッカ油 [医薬品各条, 第二部]
バナジン酸アンモニウム バナジン(V)酸アンモニウム 見よ.
バナジン(V)酸アンモニウム NH₄VO₃ [K 8747, 特級]
バニリン C₆H₅CHO(OCH₃)(OH) [K 9544]
バニリン・塩酸試液 バニリン 5 mg をエタノール(95) 0.5 mL に溶かし, 水 0.5 mL 及び塩酸 3 mL を加える. 用時製する.
バニリン・硫酸・エタノール試液 バニリン 3 g をエタノール(99.5) に溶かし, 100 mL とした液に, 硫酸 0.5 mL を加える.
バニリン・硫酸試液 硫酸 75 mL を氷冷したエタノール(95) 25 mL に注意しながら加える. 冷後, バニリン 1 g を加えて溶かす. 用時製する.
ハヌス試液 臭化ヨウ素(II) 20 g を酢酸(100) 1000 mL に溶かす.
貯法 遮光した共栓瓶に入れ, 冷所に保存する.
パラオキシ安息香酸 C₇H₆O₃ 白色の結晶である.
融点 212 ~ 216 °C
含量 98.0 % 以上. **定量法** 本品約 0.7 g を精密に量り, アセトン 50 mL に溶かし, 水 100 mL を加え, 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(電位差滴定法). 同様の方法で空試験を行い, 補正する.
0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 69.06 mg C₇H₆O₃
パラオキシ安息香酸イソアミル C₁₂H₁₆O₃ 白色の結晶性の粉末で, わずかに特異なにおいがある. アセトニトリル, エタノール(95), アセトン又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく, 水にほとんど溶けない.
融点 : 62 ~ 64 °C

パラオキシ安息香酸イソブチル $C_{11}H_{14}O_3$ 無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはない。エタノール(95)、アセトン又はジエチルエーテルに溶けやすく、水にほとんど溶けない。

融点 75 ~ 77 °C

強熱残分 0.1 % 以下。

含量 99.0 % 以上。定量法「パラオキシ安息香酸エチル」の定量法を準用する。

1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 194.23 mg $C_{11}H_{14}O_3$

パラオキシ安息香酸イソプロピル $C_{10}H_{12}O_3$ 無色の微細な結晶又は白色の結晶性の粉末で、においはない。エタノール(95)、アセトン又はジエチルエーテルに溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

融点 84 ~ 86 °C

強熱残分 0.1 % 以下。

含量 99.0 % 以上。定量法「パラオキシ安息香酸エチル」の定量法を準用する。

パラオキシ安息香酸エチル $HOC_6H_4COOC_2H_5$ [医薬品各条、第二部]

パラオキシ安息香酸ブチル $HOC_6H_4COOCH_2CH_2CH_2CH_3$ [医薬品各条、第二部]

パラオキシ安息香酸プロピル $HOC_6H_4COOCH_2CH_2CH_3$ [医薬品各条、第二部]

パラオキシ安息香酸ベンジル $C_{14}H_{12}O_3$ 白色の微細な結晶又は結晶性の粉末で、においはない。本品はエタノール(95)、アセトン又はジエチルエーテルに溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

融点 109 ~ 112 °C

強熱残分 0.1 % 以下。

含量 99.0 % 以上。定量法「パラオキシ安息香酸エチル」の定量法を準用する。

1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 228.24 mg $C_{14}H_{12}O_3$

パラオキシ安息香酸メチル $HOC_6H_4COOCH_3$ [医薬品各条、第二部]

パラフィン [医薬品各条、第二部]

パラフィン、流動 [医薬品各条、第二部「軽質流動パラフィン」]

H-D-バリル-L-ロイシル-L-アルギニン-4-ニトロアニリドニ塩酸塩 $C_{23}H_{38}N_8O_5 \cdot 2 HCl$ 白色～微黄色の粉末又は塊で、水にやや溶けにくい。

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (316 nm): 214 ~ 236 (0.01 g, 水, 500 mL).

L-バリン $C_6H_{11}NO_2$ [医薬品各条]

バルサム 顕微鏡用カナダバルサム。用時、キシレンで適当な濃度に薄める。

バルバロイン、薄層クロマトグラフ用 $C_{21}H_{22}O$ 淡黄色の結晶性粉末で、メタノールに溶けやすく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点 148 °C

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 20 μ L につき、「アロエ」の確認試験(2)を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.6 の主スポット以外のスポットを認めない。

バルビタール $C_8H_{12}N_2O_3$ [医薬品各条]

バルビタールナトリウム $C_8H_{11}N_2NaO_3$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。水に溶けやすく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

pH 本品 1.0 g を水 200 mL に溶かした液の pH は 9.9 ~ 10.3 である。

乾燥減量 1.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間)。

含量 98.5 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.5 g を精密に量り、分液漏斗に入れ、水 20 mL に溶かし、エタノール(95) 5 mL 及び希塩酸 10 mL を加え、クロロホルム 50 mL で抽出する。更にクロロホルム 25 mL で 3 回抽出し、全クロロホルム抽出液を合わせ、水 5 mL ずつで 2 回洗い、洗液はクロロホルム 10 mL ずつで 2 回抽出し、前後のクロロホルム抽出液を合わせ、三角フラスコ中ろ過する。ろ紙をクロロホルム 5 mL ずつで 3 回洗い、ろ液及び洗液を合わせ、エタノール(95) 10 mL を加え、0.1 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液で滴定する(指示薬: アリザリンエロー GG・チモールフタレン試液 2 mL)。ただし、滴定の終点は液の黄色が淡青色を経て紫色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 1 mL
= 20.617 mg $C_8H_{11}N_2NaO_3$

バルビタール緩衝液 バルビタールナトリウム 15 g を水 700 mL に溶かし、希塩酸を加えて pH 7.6 とした後、ろ過する。

パルミチン酸、ガスクロマトグラフ用 $C_{16}H_{32}O_2$ [K 8756, 特級]

パレイショデンプン [医薬品各条、第二部]

パレイショデンプン試液 パレイショデンプン 1 g をとり、以下デンプン試液に準じて製する。

パレイショデンプン試液、でんぶん消化力試験用 あらかじめ、パレイショデンプン約 1 g を精密に量り、105 °C で 2 時間乾燥し、その減量を測定する。その乾燥物 1.000 g に対応するパレイショデンプンを正確に量り、三角フラスコに入れ、水 20 mL を加え、よく振り混ぜながら、徐々に水酸化ナトリウム溶液(2 → 25) 5 mL を加えてのり状とする。次に水浴中で振り混ぜながら 3 分間加熱した後、水 25 mL を加え、冷後、2 mol/L 塩酸試液で正確に中和し、pH 5.0 の 1 mol/L 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液 10 mL を加え、水を加えて正確に 100 mL とする。用時製する。

パンクレアチン用リン酸塩緩衝液 リン酸塩緩衝液、パンクレアチン用 を見よ。

pH 測定用水酸化カルシウム 水酸化カルシウム、pH 測定用 を見よ。

pH 測定用炭酸水素ナトリウム 炭酸水素ナトリウム、pH 測定用 を見よ。

pH 測定用炭酸ナトリウム 炭酸ナトリウム、pH 測定用 を見よ。

pH 測定用ニシュウ酸三水素カリウム二水和物 ニシュウ酸三水素カリウム二水和物、pH 測定用 を見よ。

pH 測定用フタル酸水素カリウム フタル酸水素カリウム、pH 測定用 を見よ。

pH 測定用ホウ酸ナトリウム 四ホウ酸ナトリウム十水和物, pH 測定用 見よ.

pH 測定用無水リン酸一水素ナトリウム リン酸水素二ナトリウム, pH 測定用 見よ.

pH 測定用四ショウ酸カリウム 二ショウ酸三水素カリウム二水和物, pH 測定用 見よ.

pH 測定用四ホウ酸ナトリウム十水和物 四ホウ酸ナトリウム十水和物, pH 測定用 見よ.

pH 測定用リン酸水素二ナトリウム リン酸水素二ナトリウム, pH 測定用 見よ.

pH 測定用リン酸二水素カリウム リン酸二水素カリウム, pH 測定用 見よ.

α -BHC (α -ヘキサクロロシクロヘキサン) $C_6H_6Cl_6$

融点 157 ~ 159 °C

純度試験 類縁物質 本品 0.010 g を生薬純度試験用アセトン 5 mL に溶かし, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とする. この液 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし, 試料溶液とする. この液 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液 (1) とする. 試料溶液及び標準溶液 (1) 1 μ L につき, 次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う. それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき, 試料溶液の α -BHC 以外のピークの合計面積は標準溶液 (1) の α -BHC のピーク面積より大きくない.

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は, 「ニンジン末」の純度試験 (3) の操作条件を準用する.

検出感度: 標準溶液 (1) 1 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 20 mL とし, 標準溶液 (2) とする. 標準溶液 (2) 1 μ L から得た α -BHC のピーク面積が自動積分法により測定されるよう調整する. また, 標準溶液 (1) 1 μ L から得た α -BHC のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する.

面積測定範囲: 溶媒のピークの後から α -BHC の保持時間の約 2 倍の範囲

β -BHC (β -ヘキサクロロシクロヘキサン) $C_6H_6Cl_6$

融点 308 ~ 310 °C

純度試験 類縁物質 α -BHC の純度試験を準用する. ただし, 標準溶液 (1) は, 試料溶液 2 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL となるように調製する.

γ -BHC (γ -ヘキサクロロシクロヘキサン) $C_6H_6Cl_6$

融点 112 ~ 114 °C

純度試験 類縁物質 α -BHC の純度試験を準用する.

δ -BHC (δ -ヘキサクロロシクロヘキサン) $C_6H_6Cl_6$

融点 137 ~ 140 °C

純度試験 類縁物質 α -BHC の純度試験を準用する. ただし, 標準溶液 (1) は, 試料溶液 5 mL を正確に量り, 生薬純度試験用ヘキサンを加えて正確に 100 mL となるように調製する.

B 型赤血球浮遊液 B 型のヒト血液から赤血球を分離し, 生理食塩液を加えて赤血球濃度が 1 vol% となるように調製

する.

BGLB ペプトン 10 g 及び乳糖一水和物 10 g を水 500 mL に溶かし, これに新鮮な牛胆汁 200 mL 又は乾燥牛胆汁粉末 20 g を水 200 mL に溶かして pH を 7.0 ~ 7.5 に調整した液を加え, 水を加えて 975 mL とし, 更に pH を 7.4 に調整する. 次にブリリアントグリーン溶液 (1 → 1000) 13.3 mL 及び水を加えて全量を 1000 mL とし, 脱脂綿を用いてろ過し, 発酵管に 10 mL ずつ分注し, 121 °C で 20 分間以上にわたらないように高圧蒸気滅菌を行った後に急冷するか, 又は 100 °C で 30 分間, 1 日 1 回, 3 日間, 間けつ滅菌する.

光遮へい型自動微粒子測定器校正用標準粒子 プラスチック製の球状の粒子で, 大きさ及び数が既知のもの.

ピクリン酸 2,4,6-トリニトロフェノール 見よ.

ピクリン酸・エタノール試液 2,4,6-トリニトロフェノール・エタノール試液 見よ.

ピクリン酸試液 2,4,6-トリニトロフェノール試液 見よ.

ピクリン酸試液, アルカリ性 2,4,6-トリニトロフェノール試液, アルカリ性 見よ.

非水滴定用アセトン アセトン, 非水滴定用 見よ.

非水滴定用酢酸 酢酸, 非水滴定用 見よ.

非水滴定用酢酸水銀 (II) 試液 酢酸水銀 (II) 試液, 非水滴定用 見よ.

非水滴定用酢酸第二水銀試液 酢酸水銀 (II) 試液, 非水滴定用 見よ.

非水滴定用冰酢酸 酢酸, 非水滴定用 見よ.

L-ヒスチジン塩酸塩一水和物 $C_6H_9N_3O_2 \cdot HCl \cdot H_2O$ [K 9050, 特級]

ビストリメチルシリルアセトアミド $CH_3CON[Si(CH_3)_3]_2$ 無色の液体である.

屈折率 n_D^{20} : 1.414 ~ 1.418

比重 d_{20}^{20} : 0.825 ~ 0.835

沸点 71 ~ 73 °C

N,N' -ビス[2-ヒドロキシ-1-(ヒドロキシメチル)エチル]-5-ヒドロキシアセチルアミノ-2,4,6-トリヨードイソフタルアミド $C_{16}H_{20}I_3N_3O_8$ 白色の結晶性の粉末である.

確認試験

(1) 本品 0.1 g を直火で加熱するとき, 紫色のガスを発生する.

(2) 本品につき, 赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定するとき, 波数 3390 cm^{-1} , 3233 cm^{-1} , 2882 cm^{-1} , 1637 cm^{-1} , 1540 cm^{-1} , 1356 cm^{-1} 及び 1053 cm^{-1} 付近に吸収を認める.

純度試験 本品 0.10 g を水 10 mL に溶かし, 試料溶液とする. この液 1 mL を正確に量り, 水を加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液とする. 試料溶液及び標準溶液 20 μ L につき, 次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う. それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき, 試料溶液の N,N' -ビス[2-ヒドロキシ-1-(ヒドロキシメチル)エチル]-5-ヒドロキシアセチルアミノ-2,4,6-トリヨードイソフタルアミド以外のピークの合計面積は, 標準溶液の N,N' -ビス[2-ヒドロキシ-1-(ヒドロキシメチル)エチル]-5-ヒドロキシアセチルアミノ-2,4,6-トリヨードイソフタルアミドのピーク面積の 3 倍より大きくない.

試験条件

検出器、カラム、カラム温度、移動相、流量及び面積測定範囲は「イオパミドール」の純度試験(6)の試験条件を準用する。

システム適合性

システムの性能及びシステムの再現性は「イオパミドール」の純度試験(6)のシステム適合性を準用する。

ビス-(1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン) $C_{20}H_{18}N_4O_2$ 白色～微黄色の結晶又は結晶性の粉末で、鉱酸又は水酸化アルカリには溶けるが、水、アンモニア試液及び有機溶媒には溶けない。融点：300°C以上。

強熱残分 0.1%以下。

窒素含量 15.5～16.5%

ビスマス酸ナトリウム 三酸化ナトリウムビスマス を見よ。
ヒ素分析用亜鉛 亜鉛、ヒ素分析用 を見よ。

ヒトインスリンデスアミド体含有試液 「ヒトインスリン(遺伝子組換え)」 1.5 mg を 0.01 mol/L 塩酸試液 1 mL に溶かし、25°Cで3日間以上放置し、「ヒトインスリン(遺伝子組換え)」の純度試験(1)類縁物質の条件で操作すると、約5%のデスマミド体を含む溶液。

ヒトインスリンニ量体含有試液 「ヒトインスリン(遺伝子組換え)」 を 25°C で 10 日以上放置し、その 4 mg を 0.01 mol/L 塩酸試液 1 mL に溶かした溶液。

ヒドロジン一水和物 $H_2NNH_2 \cdot H_2O$ [K 8871:1980, 特級]

p-ヒドロキシアセトフェノン $C_8H_8O_2$ 白色～微黄色の結晶又は結晶性の粉末で、メタノールに溶けやすい。

融点 107～111°C

純度試験 本品 1 mg を量り、メタノールを加えて溶かし、正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液 20 μL につき、「シャクヤク」の成分含量測定法を準用し、液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液の p-ヒドロキシアセトフェノン以外のピークの合計面積は、溶媒ピークの面積を除いた全ピーク面積の $\frac{3}{100}$ より大きくない。

m-ヒドロキシアセトフェノン $C_8H_8O_2$ 白色～淡黄白色の結晶性の粉末である。

融点 約 96°C

純度試験 類縁物質 本品の pH 4.5 の 0.1 mol/L リン酸塩緩衝液溶液 (1→15000) 10 μL につき、「セファレキシン」の定量法を準用し、試験を行うとき、「セファレキシン」の定量の妨害となるピークを認めない。

3-ヒドロキ辛安息香酸 HOC_6H_4COOH 白色の結晶又は結晶性の粉末である。

確認試験 赤外吸収スペクトル測定法のペースト法により吸収スペクトルの測定を行うとき、波数 3300 cm^{-1} , 1690 cm^{-1} , 1600 cm^{-1} , 1307 cm^{-1} , 1232 cm^{-1} 及び 760 cm^{-1} 付近に吸収を認める。

融点 203～206°C

溶状 本品 1 g をメタノール 20 mL に溶かすとき、液は透明である。

含量 99.0%以上。定量法 本品約 0.2 g を精密に量り、薄めたエタノール (95) (1→2) 20 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬: クレゾールレッド試液 3 滴)。ただし、滴定の終点は液の黄色が

暗いだいだい赤色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$\begin{aligned} 0.1 \text{ mol/L 水酸化ナトリウム液 } 1 \text{ mL} \\ = 13.812 \text{ mg } C_7H_6O_3 \end{aligned}$$

N-2-ヒドロキシエチルピペラジン-N'-2-エタンスルホン酸 $C_8H_{18}N_2O_4S$ 白色の結晶性の粉末である。

純度試験 溶状 本品 11.9 g を水 50 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

含量 99.0%以上。定量法 本品約 1 g を精密に量り、水約 60 mL を加えて溶かし、0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(電位差滴定法)。

$$\begin{aligned} 0.5 \text{ mol/L 水酸化ナトリウム } 1 \text{ mL} \\ = 119.15 \text{ mg } C_8H_{18}N_2O_4S \end{aligned}$$

d-3-ヒドロキシ-cis-2,3-ジヒドロ-5-[2-(ジメチルアミノ)エチル]-2-(4-メトキシフェニル)-1,5-ベンゾチアゼピン-4(5H)-オン塩酸塩 $C_{20}H_{24}N_2O_3S \cdot HCl$ 塩酸ジルチアゼム 9 g

にエタノール (99.5) 50 mL を加え、80°Cに加熱して溶かす。この液に水酸化カリウムのエタノール (99.5) 溶液 (33→500) 50 mL を徐々に滴加し、4時間かき混ぜながら加熱する。氷冷後、ろ過し、ろ液を蒸発乾固する。残留物をエタノール (99.5) に溶かし、塩酸のエタノール (99.5) 溶液 (59→250) を徐々に加えて酸性とし、ろ過する。ろ液にジエチルエーテルを徐々に加え、得られた結晶をろ取る。これにエタノール (99.5) を加え、加熱して溶かし、活性炭 0.5 g を加え、放置した後、ろ過する。ろ液を水・メタノール浴で冷却した後、得られた結晶をろ取し、無水ジエチルエーテルで洗う。更にエタノール (99.5) を加え、加熱して溶かす。冷却した後、得られた結晶をろ取し、減圧で乾燥する。白色の結晶又は結晶性の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

純度試験 本品 0.050 g をとり、クロロホルムに溶かし、正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液 20 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にエタノール (99.5)/クロロホルム/水/酢酸 (100) 混液 (12:10:3:1) を展開溶媒として約 13 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これにヨウ素試液を均等に噴霧するとき、主スポット以外のスポットを認めない。

水分 1.0%以下 (0.5 g)。

含量 換算した脱水物に対し、99.0%以上。定量法 本品約 0.5 g を精密に量り、ギ酸 2.0 mL に溶かし、無水酢酸 60 mL を加え、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する(電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$0.1 \text{ mol/L 過塩素酸 } 1 \text{ mL} = 40.89 \text{ mg } C_{20}H_{24}N_2O_3S \cdot HCl$$

d-3-ヒドロキシ-cis-2,3-ジヒドロ-5-[2-(ジメチルアミノ)エチル]-2-(p-メトキシフェニル)-1,5-ベンゾチアゼピン-4(5H)-オン塩酸塩 **d-3-ヒドロキシ-cis-2,3-ジヒドロ-5-[2-(ジメチルアミノ)エチル]-2-(4-メトキシフェニル)-1,5-ベンゾチアゼピン-4(5H)-オン塩酸塩** を見よ。

2-ヒドロキシ-1-(2-ヒドロキシ-4-スルホ-1-ナフチルアゾ)-3-ナフトエ酸 $C_{21}H_{14}N_2O_7S$ [K 8776, 特級]

N-(3-ヒドロキシフェニル)アセトアミド C₈H₈NO₂ 白色～微黃白色の結晶である。エタノール(95)に溶けやすく、水にやや溶けにくい。

融点 146～149°C

純度試験

(1) 溶状 本品 0.5 g を水 50 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

(2) 類縁物質 本品 0.1 g を水 1000 mL に溶かす。この液 10 mL を正確に量り、アセトニトリル 6.5 mL 及び水を加えて正確に 50 mL とし、試料溶液とする。試料溶液 10 μL につき、「アスピキシリソ」の定量法の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行うとき、溶媒及び N-(3-ヒドロキシフェニル)アセトアミド以外のピークを認めない。

3-(p-ヒドロキシフェニル)プロピオン酸 C₉H₁₀O₃

性状 本品は白色～淡黄褐色の結晶又は結晶性の粉末で、わずかに特異なにおいがある。

含量 99.0% 以上 定量法 本品を乾燥し(減圧、60°C、4時間)，その約 0.2 g を精密に量り、メタノール 5 mL に溶かし、更に水 45 mL を加え、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬：プロモチモールブルー試液 5 滴)。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 16.617 mg C₉H₁₀O₃

ヒドロキシプロピルシリル化シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

ヒドロキシルアミン試液 塩酸ヒドロキシアンモニウム 10 g を水 20 mL に溶かし、エタノール(95)を加えて 200 mL とする。これにかき混ぜながら 0.5 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 150 mL を加え、ろ過する。用時製する。

ヒドロキシルアミン試液、アルカリ性 塩酸ヒドロキシアンモニウムのメタノール溶液(7→100)と、水酸化ナトリウムのメタノール溶液(3→25)を等容量混和し、ろ過する。用時製する。

ヒドロキノン C₆H₄(OH)₂ [K 8738, 特級]

ヒドロコルチゾン C₂₁H₃₀O₆ [医薬品各条]

1-ビニル-2-ピロリドン C₆H₈NO 澄明の液体である。

純度試験 本品 0.5 μL につき、次の条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法により 1-ビニル-2-ピロリドンの量を求めるとき、99.0% 以上である。

操作条件

検出器：水素炎イオン化検出器

カラム：内径約 0.53 mm、長さ約 30 m のガラス製の中空毛管カラムの内壁にガスクロマトグラフ用ボリエチレングリコール 20 M を約 1.0 μm の厚さに保持したもの。

カラム温度：80°C に 1 分間維持し、次いで 1 分間に 10°C の割合で温度を上昇させ、190°C になったらその温度に 20 分間維持する。

試料気化室温度：190°C 付近の一定温度。

キャリヤーガス：ヘリウム。

流量：1-ビニル-2-ピロリドンの保持時間が約 15 分に

なるよう調整する。

検出感度：本品 0.5 μL から得た 1-ビニル-2-ピロリドンのピーク高さが、フルスケールの約 70% になるよう調整する。

面積測定範囲：1-ビニル-2-ピロリドンの保持時間の約 2 倍の範囲

水分 水分測定用メタノール 50 mL 及びブチロラクトン 10 mL を乾燥した滴定用フラスコにとり、水分測定用試液で終点まで滴定する。次に、本品約 2.5 g を精密に量り、速やかに滴定フラスコに入れ、試験を行うとき、水分は 0.1% 以下である。

比表面積測定用 α-アルミナ α-アルミナ、比表面積測定用を見よ。

2,2'-ビペリジル C₁₀H₈N₂ [K 8486, 特級]

2-(4-ビフェニル)プロピオン酸 C₁₅H₁₄O₂ 淡黃白色の粉末である。

融点 145～148°C

純度試験 本品 1 mg を水/アセトニトリル混液(11:9)に溶かし、50 mL とする。この液 20 μL につき、「フルビプロフェン」の純度試験(3)類縁物質の操作条件に従い、液体クロマトグラフ法により試験を行う。主ピークの保持時間の約 2 倍の範囲について、各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法により 2-(4-ビフェニル)プロピオン酸の量を求めるとき 98.0% 以上である。

含量 98.0% 以上 定量法 本品をシリカゲルで 4 時間減圧乾燥し、その約 0.5 g を精密に量り、エタノール(95) 50 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬：フェノールフタレイン試液 3 滴)，同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL = 22.627 mg C₁₅H₁₄O₂

ヒベンズ酸チベピジン、定量用 C₁₅H₁₇NS₂・C₁₄H₁₀O₄ [医薬品各条、「ヒベンズ酸チベピジン」ただし、乾燥したものを定量するとき、ヒベンズ酸チベピジン(C₁₅H₁₇NS₂・C₁₄H₁₀O₄) 99.0% 以上を含むもの]

ヒポキサンチン C₅H₄N₄O 白色の結晶又は結晶性の粉末で、アンモニア試液にやや溶けやすく、希塩酸又は熱湯にやや溶けにくく、水に極めて溶けにくく、メタノールにほとんど溶けない。

純度試験 類縁物質 本品 5.0 mg をアンモニア水(28)のメタノール溶液(1→10)に溶かし正確に 100 mL とした液につき、「メルカプトプリン」の純度試験(4)を準用し、試験を行うとき、R_f 値約 0.2 の主スポット以外のスポットを認めない。

含量 97.0～103.0% 定量法 本品を 105°C で 3 時間乾燥し、その約 0.15 g を精密に量り、pH 7.0 のリン酸塩緩衝液に溶かし、正確に 1000 mL とする。この液 10 mL を正確に量り、pH 7.0 のリン酸塩緩衝液を加えて正確に 250 mL とする。この液につき、紫外可視吸光度測定法により試験を行い、波長 250 nm における吸光度 A を測定する。

$$\text{ヒポキサンチン (C}_5\text{H}_4\text{N}_4\text{O) の量 (mg)} = \frac{A}{779} \times 250000$$

ヒマシ油 [医薬品各条、第二部]

氷酢酸 酢酸(100) 見よ。

氷酢酸、非水滴定用 酢酸、非水滴定用 見よ。

氷酢酸・硫酸試液 酢酸・硫酸試液 見よ。

ピラゾール $C_8H_4N_2$ 白色～微黄色の結晶又は結晶性の粉末である。

融点 67～71°C

1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトール $C_{15}H_{11}N_3O$ だいだい黄色又はだいだい赤色の粉末である。

吸光度 本品 0.025 g をとり、メタノールに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 2.0 mL にメタノールを加えて正確に 50 mL とした液につき、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき、波長 470 nm における吸光度は 0.55 以上である。

融点 137～140°C

純度試験 溶状 本品 0.025 g をメタノール 100 mL に溶かすとき、液はだいだい黄色透明である。

強熱残分 1.0% 以下。

銳敏度 本品のメタノール溶液(1→4000) 0.2 mL に水 50 mL、メタノール 30 mL 及び pH 5.5 の酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液 10 mL を加えるとき、液は黄色を呈する。これに塩化銅(II) 二水和物溶液(1→600) 1 滴を加えるとき、液は赤紫色を呈し、更に薄めた 0.1 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム試液(1→10) 1 滴を加えるとき、黄色に戻る。

ピリジン C_6H_5N [K 8777, 特級]

ピリジン、水分測定用 一般試験法の水分測定法 見よ。

ピリジン、無水 C_6H_5N ピリジン 100 mL に水酸化ナトリウム 10 g を加え、24 時間放置した後、上澄液を傾斜して取り蒸留する。

ピリジン・酢酸試液 ピリジン 20 mL に薄めた酢酸(100)(1→25) を混和して 100 mL とする。用時製する。

ピリジン・ピラゾロン試液 3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン 0.1 g に水 100 mL を加え、65～70°C に加温し、よく振り混ぜて溶かした後、30°C 以下に冷却する。この液にピス-(1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン) 0.02 g をピリジン 20 mL に溶かした液を加えて混和する。用時製する。

ピロアンチモン酸カリウム ヘキサヒドロキソアンチモン(V) 酸カリウム 見よ。

ピロアンチモン酸カリウム試液 ヘキサヒドロキソアンチモン(V) 酸カリウム試液 見よ。

ピロール C_4H_5N 無色透明の液体で、特異なにおいがある。

エタノール(95) 又はジエチルエーテルに溶け、水にほとんど溶けない。

比重 d_{20}^{20} : 0.965～0.975

ピロガロール $C_6H_3(OH)_3$ [K 8780, 特級]

L-ピログルタミルグリシル-L-アルギニン-p-ニトロアニリン塩酸塩 $C_{19}H_{26}N_8O_6 \cdot HCl$ 白色～淡黄色の粉末で、水、メタノール又は酢酸(100)に溶けやすい。

吸光度 $E_{1cm}^{1\%}$ (316 nm): 242～268(2 mg, 水, 100 mL)。

旋光度 $[\alpha]_D^{25}$: -51～-56° [0.1 g, 薄めた酢酸(100)(1→2), 10 mL, 100 mm]。

純度試験 類縁物質 本品 0.05 g をメタノール 10 mL

に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 50 mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 20 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-ブタノール/水/ピリジン/酢酸(100)混液(15:12:10:3)を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254 nm)を照射するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは標準溶液から得たスポットより濃くない。

L-ピログルタミルグリシル-L-アルギニン-p-ニトロアニリン塩酸塩試液 L-ピログルタミルグリシル-L-アルギニン-p-ニトロアニリン塩酸塩 0.025 g 及び「D-マンニトール」0.04 g を水 2～3 mL に溶かし、凍結乾燥する。これに水 16.7 mL を加えて溶かす。用時、この液 1 容に水 9 容を加える。

ピロ硫酸カリウム 二硫酸カリウム 見よ。

ピロリン酸塩緩衝液, 0.05 mol/L, pH 9.0 ピロリン酸カリウム 0.83 g を水 40 mL に溶かし、1 mol/L 塩酸を加えて pH を 9.0 に調整し、水を加えて 50 mL とする。使用前に温度を 22 ± 2°C にする。

ピロリン酸塩緩衝液, pH 9.0 ピロリン酸カリウム 3.3 g、ジオオスレイトール 15 mg 及びエチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム二水和物 0.04 g を水 70 mL に加えて溶かし、クエン酸一水和物溶液(21→100)で pH を正確に 9.0 に調整し、水を加えて 100 mL とする。

ピロリン酸カリウム $K_4O_7P_2$ 白色の結晶性粉末で、水に極めて溶けやすい。

融点 1109°C

ファモチジン、定量用 $C_8H_{15}N_7O_2S_3$ [医薬品各条、「ファモチジン」ただし、乾燥したものを定量するとき、ファモチジン($C_8H_{15}N_7O_2S_3$) 99.0% 以上を含み、純度試験(3)により試験を行うとき、類縁物質の総量が 0.4% 以下のもの]

フィトナジオン $C_{31}H_{46}O_2$ [医薬品各条]

フィブリノーゲン ヒト又はウシの血液からエタノール又は硫酸アンモニウム分画沈殿法などを用いて製する。本品はクエン酸塩、シュウ酸塩、塩化ナトリウムを含んでいてもよい。白色無晶形である。本品 0.01 g に生理食塩液 1 mL を加え 37°C に加温するとき、わずかに混濁して溶け、この液にトロンビン 1 単位を加えるとき凝固する。

ブイヨン、普通 普通ブイヨン 見よ。

フェノール塩酸試液 フェノール 0.2 g を 6 mol/L 塩酸試液 10 mL に溶かす。

ピエラリン、薄層クロマトグラフ用 $C_{21}H_{26}O_9$ 白色の結晶性の粉末である。メタノールに溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点 約 188°C (分解)。

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 2 μL につき、「カッコン」の確認試験を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。

フェーリング試液

銅液：硫酸銅(II) 五水和物 34.66 g を水に溶かし、500 mL とする。共栓瓶にほとんど全満して保存する。

アルカリ性酒石酸塩液：酒石酸ナトリウムカリウム四水和物 173 g 及び水酸化ナトリウム 50 g を水に溶かし、500 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

用時、両液の等容量を混和する。

フェーリング試液、でんぶん消化力試験用

銅液：硫酸銅（II）五水和物 34.660 g を正確に量り、水に溶かし、正確に 500 mL とする。共栓瓶にほとんど全満して保存する。

アルカリ性酒石酸塩液：酒石酸ナトリウムカリウム四水和物 173 g 及び水酸化ナトリウム 50 g を水に溶かし、正確に 500 mL とする。ポリエチレン瓶に保存する。

用時、両液の等容量を正確に量り、混和する。

フェナセチン $C_{10}H_{13}NO_2$ [医薬品各条]

o-フェナントロリン 1,10-フェナントロリン一水和物 を見よ。

1,10-フェナントロリン一水和物 $C_{12}H_8N_2 \cdot H_2O$ [K 8789, 特級]

1,10-フェナントロリン試液 1,10-フェナントロリン一水和物 0.15 g に新たに製した硫酸鉄（II）七水和物溶液（37 → 2500）10 mL 及び希硫酸 1 mL を加えて溶かす。密栓して保存する。

o-フェナントロリン試液 1,10-フェナントロリン試液 を見よ。

フェニルアラニン $C_9H_{11}NO_2$ [医薬品各条、「L-フェニルアラニン」]

フェニル化シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

25 % フェニル-25 % シアノプロピル-メチルシリコーンポリマー、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

フェニルヒドラジン $C_6H_5NNH_2$ [K 8795 : 1980, 特級]

フェニルフルオロン $C_{19}H_{12}O_5$ [K 9547, 特級]

フェニルフルオロン・エタノール試液 フェニルフルオロン 0.050 g をとり、エタノール（95）適量及び薄めた塩酸（1 → 3）10 mL を加えて溶かし、更にエタノール（95）を加えて正確に 500 mL とする。

35 % フェニル-メチルシリコーンポリマー、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

50 % フェニル-メチルシリコーンポリマー、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

65 % フェニル-メチルシリコーンポリマー、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

1-フェニル-3-メチル-5-ピラゾロン 3-メチル-1-フェニル-5-ピラゾロン を見よ。

o-フェニレンジアミン二塩酸塩 $H_2NC_6H_4NH_2 \cdot 2HCl$ 白色～微黄色又は微紅色の結晶又は結晶性の粉末である。

溶状 本品 1 g を水 20 mL に溶かすとき、液は透明である。

含量 98.0 % 以上。定量法 本品 0.15 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する（電位差滴定法）。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL

= 0.009053 g $H_2NC_6H_4NH_2 \cdot 2HCl$

フェノール C_6H_5OH [K 8798, 特級]

フェノール、定量用 C_6H_5OH [K 8798, 特級]

p-フェノールスルホン酸ナトリウム $C_6H_5O_4NaS \cdot 2H_2O$ 本品は白色～淡黄色の結晶又は結晶性の粉末で、特異なにおいがある。

確認試験

(1) 本品の水溶液（1 → 100）10 mL に塩化鉄（III）試液 1 滴を加えるとき、液は紫色を呈する。

(2) 本品の水溶液（1 → 5000）につき、紫外可視吸光度測定法により、吸収スペクトルを測定するとき、波長 269 ~ 273 nm 及び 276 ~ 280 nm に吸収の極大を示す。

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 25 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

含量 90.0 % 以上。定量法 本品約 0.5 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、クロマトグラフ柱（150 ~ 300 μm のカラムクロマトグラフ用強酸性イオン交換樹脂（H型）20 mL を内径約 1 cm、高さ約 30 cm のクロマトグラフ管に注入して調製したもの）に入れ、流出する。次に水を用いて洗液が酸性を示さなくなるまでクロマトグラフ柱を洗う。洗液は先の流出液に合わせ、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する（指示薬：プロモクレゾールグリシン・メチルレッド試液 5 滴）。別に本品 0.5 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定を行い、補正する。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL
= 23.219 mg $C_6H_5O_4NaS \cdot 2H_2O$

フェノールスルホンフタレン、定量用 $C_{19}H_{14}O_5S$ [医薬品各条、「フェノールスルホンフタレン」ただし、乾燥したものを定量するとき、フェノールスルホンフタレン（ $C_{19}H_{14}O_5S$ ）99.0 % 以上を含むもの】

フェノール・ニトロブルシドナトリウム試液 フェノール・ペンタシアノニトロシル鉄（III）酸ナトリウム試液 を見よ。

フェノールフタレン $C_{20}H_{14}O_4$ [K 8799, 特級]

フェノールフタレン試液 フェノールフタレン 1 g をエタノール（95）100 mL に溶かす。

フェノールフタレン・チモールブルー試液 A 液：フェノールフタレン 0.1 g を薄めたエタノール（4 → 5）100 mL に溶かす。B 液：チモールブルー 0.1 g をエタノール（95）/希水酸化ナトリウム試液混液（250 : 11）50 mL に溶かし、水を加えて 100 mL とする。用時 A 液 2 容量、B 液 3 容量を混ぜる。

フェノール・ペンタシアノニトロシル鉄（III）酸ナトリウム試液 フェノール 5 g 及びペンタシアノニトロシル鉄（III）酸ナトリウム二水和物 0.025 g を水に溶かし、500 mL とする。冷暗所に保存する。

フェノールレッド $C_{19}H_{14}O_5S$ [K 8800, 特級]

フェノールレッド試液 フェノールレッド 0.1 g をエタノール（95）100 mL に溶かし、必要ならば過する。

フェノバルビタールナトリウム $C_{12}H_{11}N_2NaO_3$ [医薬品各条]

フェリシアン化カリウム ヘキサシアノ鉄（III）酸カリウムを見よ。

フェリシアン化カリウム試液 ヘキサシアノ鉄(III)酸カリウム試液を見よ。

フェリシアン化カリウム試液、アルカリ性 ヘキサシアノ鉄(III)酸カリウム試液、アルカリ性を見よ。

フェロシアン化カリウム ヘキサシアノ鉄(II)酸カリウム三水和物を見よ。

フェロシアン化カリウム試液 ヘキサシアノ鉄(II)酸カリウム試液を見よ。

フォリン試液 タングステン(VI)酸ナトリウム二水和物20g、モリブデン(VI)酸二ナトリウム二水和物5g及び水約140mLを300mLのフラスコに入れ、これに薄めたリン酸(17→20)10mL及び塩酸20mLを加え、すり合わせの還流冷却器を付け、10時間穏やかに煮沸する。次に硫酸リチウム一水和物30g及び水10mLを加え、更に臭素ごく少量を加えて濃緑色の液を黄色とし、冷却器を付けず15分間煮沸して過量の臭素を除く。冷後、水を加えて200mLとし、ガラスろ過器でろ過し、塵が混入しないようにして保存する。この液を原液とし、使用するとき所定の濃度に水で薄める。

フクシン 光沢のある緑色の結晶性粉末または塊で、水又はエタノール(95)に溶けにくい。

乾燥減量 17.5~20.0% (1g, 105°C, 4時間)。

強熱残分 0.1%以下 (1g)。

フクシン亜硫酸試液 フクシン0.2gを温湯120mLに溶かし、放冷後、無水亜硫酸ナトリウム2gを水20mLに溶かした液及び塩酸2mLを加え、更に水を加えて200mLとする。少なくとも1時間放置する。用時製する。

フクシン・エタノール試液 フクシン11gをエタノール(95)100mLに溶かす。

フクシン試液、脱色 脱色フクシン試液を見よ。

1-ブタノール $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_2\text{CH}_2\text{OH}$ [K 8810, 特級]

1-ブタノール、アンモニア飽和 1-ブタノール100mLに薄めたアンモニア水(28)(1→100)60mLを加えて10分間激しく振り混ぜた後、静置する。上層液を用いる。

2-ブタノール $\text{CH}_3\text{CH}_2\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_3$ [K 8812, 特級]

n-ブタノール 1-ブタノールを見よ。

ブタノール、イソ 2-メチル-1-プロパノールを見よ。

ブタノール、第三 t-ブチルアルコールを見よ。

ブタノール、第二 2-ブタノールを見よ。

2-ブタノン $\text{CH}_3\text{COC}_2\text{H}_5$ [K 8900, 特級]

o-フタルアルデヒド $\text{C}_6\text{H}_4(\text{CHO})_2$ 本品は淡黄色~黄色の結晶である。

含量 99%以上 定量法 本品1gをエタノール10mLに溶かす。この液2μLにつき、ガスクロマトグラフ法により次の条件で試験を行う。得られたガスクロマトグラムにつき、自動積分法により、それぞれの成分のピーク面積を測定する。

$$\text{含量} = \frac{o-\text{フタルアルデヒドのピーク面積}}{\text{それぞれの成分のピーク面積の総和}} \times 100$$

操作条件

検出器：熱伝導度検出器

カラム：内径3mm、長さ2mのガラス管にガスクロマトグラフ用メチルシリコンポリマーを酸及びシラン処理した177~250μmのガスクロマトグラフ用ケイソ

ウ土に10%の割合で被覆したもの充てんする。
カラム温度：180°C付近の一定温度
キャリヤーガス：ヘリウム
流量：毎分約50mLの一定量でo-フタルアルデヒドの保持時間が3~4分になるように調整する。
測定範囲：溶媒ピークが流出した後、o-フタルアルデヒドの保持時間の7倍まで測定する。

フタル酸 $\text{C}_8\text{H}_6\text{O}_4$ 無色~白色の結晶性粉末である。メタノール又はエタノール(95)にやや溶けやすく、水に溶けにくく、クロロホルムにほとんど溶けない。融点：約200°C(分解)。

含量 98%以上 定量法 本品約2.8gを精密に量り、1mol/L水酸化ナトリウム液50mLを正確に加え、更に水25mLを加え、加熱板上で加温して溶かす。冷後フェノールフタレン試液5滴を加え、0.5mol/L硫酸で過量の水酸化ナトリウムを滴定する。同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$1\text{ mol/L 水酸化ナトリウム液 } 1\text{ mL} = 83.07\text{ mg } \text{C}_8\text{H}_6\text{O}_4$$

フタル酸ジエチル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOC}_2\text{H}_5)_2$ 無色の澄明な液である。

$$\text{屈折率 } n_D^{20} : 1.500 \sim 1.505$$

純度試験 類縁物質 本品1mLをとり、臭化テトラn-ヘプチルアンモニウムの水/アセトニトリル/メタノール混液(137:80:23)溶液(2→625)を加えて100mLとする。この液6mLをとり、臭化テトラn-ヘプチルアンモニウムの水/アセトニトリル/メタノール混液(137:80:23)溶液(2→625)を加えて50mLとし、試料溶液とする。試料溶液10μLにつき、「塩酸セフェタメトピボキシル」の定量法を準用して試験を行うとき、溶媒及び本品のピーク以外のピークを認めない。

フタル酸ジシクロヘキシル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOC}_6\text{H}_{11})_2$ 白色の結晶性の粉末である。

$$\text{融点 } 63 \sim 66^\circ\text{C}$$

純度試験 溶状 本品1.0gをエタノール(95)20mLに溶かすとき、液は無色澄明である。

フタル酸ジノニル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOC}_6\text{H}_{19})_2$ 無色~微黄色の澄明な液である。

$$\text{比重 } d_{20}^{20} : 0.967 \sim 0.987$$

$$\text{酸価 } 2 \text{ 以下}$$

フタル酸ジフェニル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOC}_6\text{H}_5)_2$ 白色の結晶性の粉末である。

$$\text{融点 } 71 \sim 76^\circ\text{C}$$

純度試験 類縁物質 本品0.06gをクロロホルム50mLに溶かし、試料溶液とする。この液10μLにつき、「トルナフタート液」の定量法を準用し、試験を行うとき、保持時間約8分の主ピーク及び溶媒によるピーク以外のピークを認めない。ただし、検出感度は試料溶液10μLから得たフタル酸ジフェニルのピーク高さがフルスケールの50~100%になるように調整し、ピーク測定範囲は溶媒ピークの後からフタル酸ジフェニルの保持時間の約2倍の範囲とする。

フタル酸ジ-n-ブチル $\text{C}_6\text{H}_4(\text{COOC}_4\text{H}_9)_2$ 無色澄明の液体である。

純度試験 類縁物質 本品 0.5 g をとり、メタノール 50 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 10 μ L につき、「塩酸ニカルジピン注射液」の定量法を準用し、試験を行う。この液のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率によりフタル酸ジ-n-ブチルの純度を求めるとき、98.0 % 以上であり、ニカルジピンと同じ位置にピークを認めない。ただし、検出感度は試料溶液 10 μ L から得たフタル酸ジ-n-ブチルのピークの高さがフルスケールの 50 ~ 100 % になるように調整し、ピーク面積測定範囲は溶媒のピークの後からフタル酸ジ-n-ブチルの保持時間の約 2 倍の範囲とする。

フタル酸ジメチル $C_{16}H_{22}O_4$ 無色透明の液体で、わずかに芳香がある。

屈折率 n_D^{20} : 1.491 ~ 1.493

純度試験 本品のイソオクタン溶液 (1 → 100) 6.0 mL をとり、n-アミルアルコールのヘキサン溶液 (3 → 1000) を加えて 50 mL とした液 10 μ L につき、「エルゴカルシフェロール」又は「コレカルシフェロール」の定量法に従い、液体クロマトグラフ法により試験を行うとき、主ピーク以外にピークを認めない。

フタル酸水素カリウム $C_6H_4(COOK)(COOH)$ [K 8809, 特級]

フタル酸水素カリウム (標準試薬) $C_6H_4(COOK)(COOH)$ [K 8005, 容量分析用標準物質]

フタル酸水素カリウム, pH 測定用 $C_6H_4(COOK)(COOH)$ [K 8809, pH 標準液用]

フタル酸水素カリウム緩衝液, 0.3 mol/L, pH 4.6 フタル酸水素カリウム 61.26 g を水約 800 mL に溶かし、水酸化ナトリウム試液を用いて pH を 4.6 に調整した後、水を加えて 1000 mL とする。

フタル酸水素カリウム緩衝液, pH 3.5 緩衝液用 0.2 mol/L フタル酸水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 塩酸 7.97 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

フタル酸水素カリウム緩衝液, pH 4.6 緩衝液用 0.2 mol/L フタル酸水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 12.0 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

フタル酸水素カリウム緩衝液, pH 5.6 緩衝液用 0.2 mol/L フタル酸水素カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 39.7 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

フタル酸水素カリウム試液, 0.2 mol/L, 緩衝液用 pH 測定用フタル酸水素カリウム 40.843 g を水に溶かし、正確に 1000 mL とする。

n-ブチルアミン $CH_3CH_2CH_2CH_2NH_2$ 無色の液で、アミンのような特異なにおいがある。水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルと混和する。水溶液はアルカリ性で、空気中でたやすく二酸化炭素を吸収する。

比重 d_4^{20} : 0.740 ~ 0.747

蒸留試験 76.5 ~ 79 °C, 96 vol% 以上。

t-ブチルアルコール $(CH_3)_3COH$ [K 8813, 特級]

tert-ブチルメチルエーテル $(CH_3)_3COCH_3$ 無色透明の液で、特異においがある。

比重 d_4^{20} : 0.7404

屈折率 n_D^{20} : 1.3689

ブチロラクトン $C_4H_8O_2$ 無色～ほとんど無色透明の液体であ

る。

比重 d_4^{25} : 1.128 ~ 1.135

沸点 198 ~ 208 °C

普通カンテン培地 普通ブイヨン 1000 mL にカンテン 25 ~ 30 g を加え、加熱して溶かす。蒸発した水を補い、pH を 6.4 ~ 7.0 に調整した後、ろ過し、分注した後、高压蒸気滅菌する。粉末状のカンテンを用いる場合は 15 ~ 20 g を用いる。

普通ブイヨン 肉エキス 5 g 及びペプトン 10 g を水 1000 mL に加え、穏やかに加温して溶かし、滅菌後の pH が 6.4 ~ 7.0 になるように調整し、冷後、蒸発した水を補い、ろ過する。この液を 121 °C で 30 分間高压蒸気滅菌する。

フッ化水素酸 HF [K 8819, ふっ化水素酸, 特級] フッ化水素酸 (HF) 46.0 % 以上を含むもの。

フッ化ナトリウム NaF [K 8821, ふっ化ナトリウム, 特級]

フッ化ナトリウム (標準試薬) NaF [K 8005, ふっ化ナトリウム, 容量分析用標準物質]

フッ化ナトリウム試液 フッ化ナトリウム 0.5 g を 0.1 mol/L 塩酸試液 100 mL に溶かす。用時製する。

ブドウ糖 $C_6H_{12}O_6$ [医薬品各条]

ブドウ糖試液 ブドウ糖 30 g を水に溶かし、100 mL とする。注射剤の製法により製する。

ブドウ糖・ペプトン培地, 無菌試験用 一般試験法の無菌試験法 無菌試験用ブドウ糖・ペプトン培地 を見よ。

N-t-ブトキシカルボニル-L-グルタミン酸- α -フェニルエステル $C_{16}H_{21}NO_6$ 白色の粉末である。

融点 : 95 ~ 104 °C

純度試験 類縁物質 本品 0.01 g を希エタノール 5 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、希エタノールを加えて正確に 50 mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル (蛍光剤入り) を用いて調製した 3 枚の薄層板にそれぞれスポットする。次に 1 枚目はクロロホルム/酢酸エチル/酢酸 (100) 混液 (25 : 25 : 1), 2 枚目はベンゼン/ジオキサン/酢酸 (100) 混液 (95 : 25 : 4), 3 枚目はクロロホルム/メタノール/酢酸 (100) 混液 (45 : 4 : 1) を展開溶媒として約 12 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これらに紫外線 (主波長 254 nm) を照射するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

ブファリン, 成分含量測定用 $C_{24}H_{34}O_4 \cdot xH_2O$ 白色の結晶性の粉末で、においはない。

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}$ (300 nm) : 143 ~ 153 (0.01 g, メタノール, 250 mL)。ただし、デシケーター (シリカゲル) で 24 時間乾燥したもの。

純度試験 類縁物質 本品 0.040 g をクロロホルム 5 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、クロロホルムを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にシクロヘキサン/アセトン/クロロホルム混液 (4 :

3:3) を展開溶媒として約 14 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに硫酸を均等に噴霧し、100 °C で 2 ~ 3 分間加熱するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより大きくなく、かつ濃くない。

含量 99.0 % 以上。含量測定法 本品をデシケーター(シリカゲル)で 24 時間乾燥し、その約 0.01 g を精密に量り、メタノールを加えて溶かし、正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液 20 μL につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。各々のピーク面積を自動積分法により測定し、面積百分率法によりブファリンの量を求める。

操作条件

検出器：紫外吸光度計(測定波長：300 nm)

カラム：内径 4 ~ 6 mm、長さ 15 ~ 30 cm のステンレス管に 5 ~ 10 μm の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：40 °C 付近の一定温度

移動相：水・アセトニトリル混液(1:1)

流量：ブファリンの保持時間が約 6 分になるように調整する。

カラムの選定：成分含量測定用ブファリン、成分含量測定用シノブファギン及び成分含量測定用レジブフォグニン 0.01 g ずつをメタノールに溶かして 200 mL とする。この液 20 μL につき、上記の条件で操作するとき、ブファリン、シノブファギン、レジブフォグニンの順に溶出し、それぞれのピークが完全に分離するものを用いる。

検出感度：試料溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液(1)とする。この溶液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液(2)とする。標準溶液(2) 20 μL から得たブファリンのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液(1) 20 μL から得たブファリンのピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からブファリンの保持時間の約 2 倍の範囲

ブフェキサマク、定量用 C₁₂H₁₇NO₃ [医薬品各条、「ブフェキサマク」ただし、乾燥したものを定量するとき、ブフェキサマク(C₁₂H₁₇NO₃) 99.0 % 以上を含み、「ブフェキサマク軟膏」の確認試験を準用し、試験を行うとき、主スポット以外のスポットを認めないもの]

フマル酸、薄層クロマトグラフ用 C₄H₄O₄ 白色の結晶性の粉末で、においはなく、特異な酸味を有する。

純度試験 「フマル酸クレマスチン」の確認試験(5)を準用し、試験を行うとき、R_f 値約 0.8 の主スポット以外のスポットを認めない。

プラジキニン C₅₀H₇₃N₁₅O₁₁ 白色の粉末で、水又は酢酸(31)に溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

旋光度 [α]_D²⁰ : -80 ~ -90 ° (0.015 g, 水, 5 mL, 100 mm)。

純度試験 類縁物質 本品 2 mg に水 0.2 mL を加えて溶かし、試料溶液とする。この液につき薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液 5 μL を、薄層クロマトグラフ用セルロースを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-ブタノール/水/ピリジン/酢酸(31) 混液(15:12:10:3) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、60 °C で薄層板を乾燥する。これにニンヒドリンの 1-ブタノール溶液(1 → 1000)を均等に噴霧した後、60 °C で 30 ~ 60 分間加熱するとき、プラジキニンに由来する主スポット以外のスポットを認めない。

プラゼバム、定量用 C₁₉H₁₇ClN₂O [医薬品各条、「プラゼバム」ただし、乾燥したものを定量するとき、プラゼバム(C₁₉H₁₇ClN₂O) 99.0 % 以上を含むもの]

ブリリアントグリーン C₂₇H₃₄N₂O₄S 微細な光沢ある黄色の結晶で、水又はエタノール(95)に溶ける。極大吸収波長 623 nm.

ブルーテトラゾリウム C₄₀H₃₂Cl₂N₈O₂ 3,3'-ジアニソール-ビス[4,4'-(3,5-ジフェニル)テトラゾリウムクロリド] 淡黄色の結晶で、メタノール、エタノール(95)又はクロロホルムに溶けやすく、水に溶けにくく、アセトン又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点：約 245 °C (分解)。

吸光度 E_{1cm}^{1%} (252 nm) : 826 以上 (メタノール)。

ブルーテトラゾリウム試液、アルカリ性 ブルーテトラゾリウムのメタノール溶液(1 → 200) 1 容量に、水酸化ナトリウムのメタノール溶液(3 → 25) 3 容量を加える。用時製する。

フルオシノロンアセトニド C₂₄H₃₀F₂O₆ [医薬品各条]

フルオレセイン C₂₀H₁₂O₅ [K 8829 : 1991, 特級]

フルオレセインナトリウム C₂₀H₁₀Na₂O₅ [医薬品各条]

フルオレセインナトリウム試液 フルオレセインナトリウム 0.2 g を水に溶かし、100 mL とする。

1-フルオロ-2,4-ジニトロベンゼン C₈H₆(NO₂)₂F [K 8479, 特級]

フルオロシリル化シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

ブルシン ブルシン二水和物 を見よ。

ブルシン二水和物 C₂₃H₂₆N₂O₄ · 2H₂O [K 8832, ブルシン n 水和物, 特級]

フルフラール C₅H₄O₂ [K 8833 : 1978, 特級]

フルラゼバム、定量用 C₂₁H₂₂ClFN₃O [医薬品各条、「フルラゼバム」ただし、乾燥したものを定量するとき、フルラゼバム(C₂₁H₂₂ClFN₃O) 99.3 % 以上を含むもの]

プレドニゾロン C₂₁H₂₈O₅ [医薬品各条]

プレドニゾン C₂₁H₂₈O₆ 白色の結晶性の粉末で、メタノール、エタノール(95)又はクロロホルムに溶けにくく、水に極めて溶けにくい。

旋光度 [α]_D²⁰ : +167 ~ +175 ° (乾燥後、0.1 g, 1,4-ジオキサン, 10 mL, 100 mm)。

乾燥減量 1.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 3 時間)。

含量 96.0 ~ 104.0 %. 定量法 本品を乾燥し、その約 0.02 g を精密に量り、メタノールに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とする。この液につき、紫外可視吸光

度測定法により試験を行い、238 nm 付近の吸収極大の波長における吸光度 A を測定する。

$$\text{プレドニゾン (C}_{21}\text{H}_{30}\text{O}_6\text{) の量 (mg)} = \frac{A}{440} \times 20000$$

フロイント完全アジュバント 鉱物油 85 容にアラセル A 15 容の混合物 10 mL に結核菌 *corynebacterium butyricum* のミコバクテリアの加熱死菌 5 mg を浮遊させたもの。

プロゲステロン C₂₁H₃₀O₂ [医薬品各条]

プロスタグランジン A₁ C₂₀H₃₂O₄ 白色の結晶又は結晶性の粉末。エタノール (95) 又は酢酸エチルに極めて溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

純度試験 類縁物質 本品 5 mg をエタノール (95) 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 3 mL を正確に量り、エタノール (95) を加えて正確に 100 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10 μ L につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のプロスタグランジン A₁ 以外のピークの合計面積は標準溶液のプロスタグランジン A₁ のピーク面積より大きくなる。

操作条件

検出器、カラム、カラム温度、移動相、流量及びカラムの選定は「アルプロスタジアルファデスク」の定量法の操作条件を準用する。

検出感度：標準溶液 10 μ L から得たプロスタグランジン A₁ のピーク高さがフルスケールの 5 ~ 10 % になるよう調整する。

面積測定範囲：溶媒ピークの後からプロスタグランジン A₁ の保持時間の約 2 倍の範囲

V 8 プロテーゼ *Staphylococcus aureus* 株から得たプロテーゼ。 pH 7.8, 37 °C において 1 分間に 1 μ mol の N-t-ブトキシカルボニル-L-グルタミン酸- α -フェニルエステルを加水分解する酵素量を 1 単位とするとき、本品 1 mg は 500 ~ 1000 単位を含む。

V 8 プロテーゼ酵素試液 V 8 プロテーゼを水に溶かし、1 mg/mL とする。冷所に保存し、調製後 6 日以内に使用する。

1-プロパノール CH₃CH₂CH₂OH [K 8838, 特級]

2-プロパノール (CH₃)₂CHOH [K 8839, 特級]

n-プロパノール 1-プロパノール 見よ。

プロパノール、イソ 2-プロパノール 見よ。

2-プロパノール、液体クロマトグラフ用 (CH₃)₂CHOH 無色透明、揮発性の液で特異な臭いがある。水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルと混和する。沸点：約 82 °C

屈折率 n_D^{20} : 1.376 ~ 1.378

比重 d_{20}^{20} : 0.785 ~ 0.788

純度試験

(1) 紫外吸収物質 本品につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法により試験を行うとき、吸光度は 230 nm で 0.2 以下、250 nm で 0.03 以下、280 ~ 400 nm で 0.01 以下である。

(2) 過酸化物 本品 20 g に、あらかじめ水 100 mL 及び希硫酸 25 mL を混和した液にヨウ化カリウム溶液 (1 → 10) 25 mL を加えた液を加える。これを密

栓して振り混ぜた後、15 分間暗所に放置する。この液を 0.01 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する（指示薬：デンプン試液 1 mL）。同様の方法で空試験を行ひ、補正する (0.0005 % 以下)。

プロピオン酸 CH₃CH₂COOH 無色の液体である。

純度試験 溶状 本品 1 g をエタノール (95) 20 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

比重 d_{20}^{20} : 0.998 ~ 1.004

蒸留試験 139 ~ 143 °C, 95 vol% 以上。

プロピオン酸エチル CH₃CH₂COOC₂H₅ 無色透明な液である。

比重 d_4^{20} : 0.890 ~ 0.892

プロピオン酸テストステロン C₂₂H₃₂O₃ [医薬品各条]

プロピルアミン、イソ (CH₃)₂CHNH₂ 無色の液で、アミンのような特異なにおいがある。水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルと混和する。

屈折率 n_D^{20} : 1.374 ~ 1.376

比重 d_{20}^{20} : 0.685 ~ 0.690

蒸留試験 31 ~ 33 °C, 95 vol% 以上。

プロピルエーテル、イソ (CH₃)₂CHOCH(CH₃)₂ 無色透明の液で、特異なにおいがある。水と混和しない。

屈折率 n_D^{20} : 1.368 ~ 1.369

比重 d_4^{20} : 0.723 ~ 0.725

プロピルチオウラシル、定量用 C₇H₁₀N₂OS [医薬品各条] 「プロピルチオウラシル」ただし、乾燥したものを定量するとき、プロピルチオウラシル (C₇H₁₀N₂OS) 99.0 % 以上を含むもの】

プロピレングリコール CH₃CH(OH)CH₂OH [K 8837, 特級]

プロベネシド C₁₃H₁₉NO₄S [医薬品各条]

プロムクレゾールグリン プロモクレゾールグリン 見よ。

プロムクレゾールグリン・塩化メチルロザニリン試液 プロモクレゾールグリン・クリスタルバイオレット試液 見よ。

プロムクレゾールグリン試液 プロモクレゾールグリン試液 見よ。

プロムクレゾールグリン・水酸化ナトリウム・酢酸・酢酸ナトリウム試液 プロモクレゾールグリン・水酸化ナトリウム試液 見よ。

プロムクレゾールグリン・水酸化ナトリウム試液 ブロモクレゾールグリン・水酸化ナトリウム試液 見よ。

プロムクレゾールグリン・メチルレッド試液 ブロモクレゾールグリン・メチルレッド試液 見よ。

プロムクレゾールパープル ブロモクレゾールパープル 見よ。

プロムクレゾールパープル試液 ブロモクレゾールパープル試液 見よ。

プロムクレゾールパープル・水酸化ナトリウム試液 ブロモクレゾールパープル・水酸化ナトリウム試液 見よ。

プロムクレゾールパープル・リン酸一水素カリウム・クエン酸試液 ブロモクレゾールパープル・リン酸水素二カリウム・クエン酸試液 見よ。

N-プロムサクシンイミド N-プロモスクシンイミド 見よ。

N-プロムサクシンイミド試液 N-プロモスクシンイミド試液

- を見よ。
- プロムチモールブルー プロモチモールブルー 見よ。
- プロムチモールブルー試液 プロモチモールブルー試液 見よ。
- プロムチモールブルー・水酸化ナトリウム試液 プロモチモールブルー・水酸化ナトリウム試液 見よ。
- プロムフェノールブルー プロモフェノールブルー 見よ。
- プロムフェノールブルー試液 プロモフェノールブルー試液 見よ。
- プロムフェノールブルー試液, 希 プロモフェノールブルー試液, 希 見よ。
- プロムフェノールブルー試液, pH 7.0 プロモフェノールブルー試液, pH 7.0 見よ。
- プロムフェノールブルー・フタル酸水素カリウム試液 プロモフェノールブルー・フタル酸水素カリウム試液 見よ。
- プロムワレリル尿素 $C_6H_{11}BrN_2O_2$ [医薬品各条]
- プロモクレゾールグリン $C_{21}H_{14}Br_4O_6S$ [K 8840, 特級]
- プロモクレゾールグリン・クリスタルバイオレット試液 プロモクレゾールグリン 0.3 g 及びクリスタルバイオレット 0.075 g をエタノール (95) 2 mL に溶かし, アセトンを加えて 100 mL とする。
- プロモクレゾールグリン試液 プロモクレゾールグリン 0.05 g をエタノール (95) 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する。
- プロモクレゾールグリン・水酸化ナトリウム・酢酸・酢酸ナトリウム試液 プロモクレゾールグリン 0.25 g に水 15 mL 及び希水酸化ナトリウム試液 5 mL を加え, 更に少量の pH 4.5 の酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液を加え, 振り混ぜながら溶かした後, pH 4.5 の酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液を加えて 500 mL とする。この液 250 mL をジクロロメタン 100 mL ずつで 2 回洗う。必要ならばろ過する。
- プロモクレゾールグリン・水酸化ナトリウム試液 プロモクレゾールグリン 0.2 g に 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 2.8 mL を加え, 乳鉢中で研和し, 水を加えて 200 mL とし, 必要ならばろ過する。
- プロモクレゾールグリン・メチルレッド試液 プロモクレゾールグリン 0.15 g 及びメチルレッド 0.1 g をエタノール (99.5) 180 mL に溶かし, 水を加えて 200 mL とする。
- プロモクレゾールパープル $C_{21}H_{16}Br_2O_6S$ [K 8841, 特級]
- プロモクレゾールパープル試液 プロモクレゾールパープル 0.05 g をエタノール (95) 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する。
- プロモクレゾールパープル・水酸化ナトリウム試液 プロモクレゾールパープル 0.4 g に希水酸化ナトリウム試液 6.3 mL を加え, 乳鉢中で研和し, 水を加えて 250 mL とし, 必要ならばろ過する。
- プロモクレゾールパープル・リン酸水素二カリウム・クエン酸試液 プロモクレゾールパープル・リン酸水素二カリウム・クエン酸緩衝液 30 mL に pH 5.3 のリン酸水素二カリウム・クエン酸緩衝液 30 mL を加え, クロロホルム 60 mL ずつで 3 回洗う。
- N-プロモスクシンイミド $C_6H_4BrNO_2$ [K 9553, 特級]
- N-プロモスクシンイミド試液 N-プロモスクシンイミド 1 g を水 1000 mL に溶かす。
- プロモチモールブルー $C_{27}H_{28}Br_2O_6S$ [K 8842, 特級]
- プロモチモールブルー試液 プロモチモールブルー 0.1 g を希エタノール 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する。
- プロモチモールブルー・水酸化ナトリウム試液 プロモチモールブルーを粉末とし, その 0.2 g に希水酸化ナトリウム試液 5 mL を加え, 更に少量の水を加え, 50 °C の水浴中で振り混ぜながら溶かした後, 水を加えて 100 mL とする。
- プロモフェノールブルー $C_{19}H_{10}Br_4O_6S$ [K 8844, 特級]
- プロモフェノールブルー試液 プロモフェノールブルー 0.1 g を希エタノール 100 mL に溶かし, 必要ならばろ過する。
- プロモフェノールブルー試液, 希 プロモフェノールブルー 0.05 g をエタノール (99.5) 100 mL に溶かす。用時製する。
- プロモフェノールブルー試液, pH 7.0 プロモフェノールブルー試液 10 mL にエタノール (95) 10 mL を加える。この液に薄めた希水酸化ナトリウム試液 (1 → 10) を加えて pH を 7.0 に調整する。
- 0.05 % プロモフェノールブルー試液 プロモフェノールブルー 0.01 g を水に溶かし, 20 mL とする。
- プロモフェノールブルー・フタル酸水素カリウム試液 プロモフェノールブルー 0.1 g を pH 4.6 のフタル酸水素カリウム緩衝液に溶かし, 100 mL とする。
- L-プロリン $C_6H_9NO_2$ [K 9107, 特級]
- フロログルシン $C_6H_3(OH)_3 \cdot 2H_2O$ [K 8846 : 1961, 特級]
- 噴霧用塩化 p-ニトロベンゼンジアゾニウム試液 4-ニトロベンゼンジアゾニウム塩酸塩試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用希次硝酸ビスマス・ヨウ化カリウム試液 希次硝酸ビスマス・ヨウ化カリウム試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用 p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用ドラーゲンドルフ試液 ドラーゲンドルフ試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用 4-ニトロベンゼンジアゾニウム塩酸塩試液 4-ニトロベンゼンジアゾニウム塩酸塩試液, 噴霧用 見よ。
- 噴霧用 p-ニトロベンゼンジアゾニウム塩酸塩試液 4-ニトロベンゼンジアゾニウム塩酸塩試液, 噴霧用 見よ。
- ペオニフロリン, 薄層クロマトグラフ用 $C_{23}H_{28}O_{11} \cdot nH_2O$ 無色の粉末で, においはない。水又はメタノールに溶けやすく, ジエチルエーテルにほとんど溶けない。融点: 123 ~ 125 °C (分解)。
- 純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり, メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 20 μL につき, 「シャクヤク」の確認試験 (2) を準用し, 試験を行うとき, R_f 値約 0.3 の主スポット以外のスポットを認めない。
- ペオノール, 成分含量測定用 薄層クロマトグラフ用ペオノール, ただし, 次の試験に適合するもの。
- 吸光度 $E_{1cm}^{1\%}$ (274 nm) : 853 ~ 934 (0.005 g, メタノール, 1000 mL)。ただし, デシケーター (乾燥用塩化カルシウム) で 1 時間以上乾燥したものの。
- 純度試験 類縁物質 本品 5.0 mg を移動相 50 mL に溶かし, 試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り, 移動相を加えて正確に 100 mL とし, 標準溶液 (1) とする。試料溶液及び標準溶液 (1) 10 μL につき, 次の条件

で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のペオノール以外のピークの合計面積は標準溶液（1）のペオノールのピーク面積より大きくない。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「ボタンピ」の成分含量測定法の操作条件を準用する。

検出感度：標準溶液（1）1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液（2）とする。標準溶液（2）10 μ L から得たペオノールのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液（1）10 μ L から得たペオノールのピーク高さがフルスケールの約 20 % になるよう調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からペオノールの保持時間の約 3 倍の範囲

ペオノール、薄層クロマトグラフ用 $C_9H_{10}O_3$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、特異においがある。メタノール又はジエチルエーテルに溶けやすく、水に溶けにくい。融点：約 50 °C。

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液 10 μ L につき、「ボタンピ」の確認試験を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.5 の主スポット以外のスポットを認めない。

ヘキサクロロ白金（IV）酸試液 ヘキサクロロ白金（IV）酸六水和物 2.6 g を水に溶かし、20 mL とする (0.125 mol/L)。

ヘキサクロロ白金（IV）酸・ヨウ化カリウム試液 ヘキサクロロ白金（IV）酸試液 3 mL に水 97 mL 及びヨウ化カリウム溶液 (3 → 50) 100 mL を加える。用時製する。

ヘキサクロロ白金（IV）酸六水和物 $H_2PtCl_6 \cdot 6H_2O$ [K 8153, 特級]

ヘキシアノ鉄（II）酸カリウム三水和物 $K_4Fe(CN)_6 \cdot 3H_2O$ [K 8802, 特級]

ヘキシアノ鉄（II）酸カリウム試液 ヘキシアノ鉄（II）酸カリウム三水和物 1 g を水に溶かし、10 mL とする。用時製する (0.25 mol/L)。

ヘキシアノ鉄（III）酸カリウム $K_3Fe(CN)_6$ [K 8801, 特級]

ヘキシアノ鉄（III）酸カリウム試液 ヘキシアノ鉄（III）酸カリウム 1 g を水に溶かし、10 mL とする。用時製する (0.3 mol/L)。

ヘキシアノ鉄（III）酸カリウム試液、アルカリ性 ヘキシアノ鉄（III）酸カリウム 1.65 g 及び無水炭酸ナトリウム 10.6 g を水に溶かし、1000 mL とする。遮光して保存する。

ヘキシリル化シリカゲル、液体クロマトグラフ用 液体クロマトグラフ用に製造したもの。

ヘキサニトロコバルト（III）酸ナトリウム $Na_3Co(NO_3)_6$ [K 8347, 特級]

ヘキサニトロコバルト（III）酸ナトリウム試液 ヘキサニトロコバルト（III）酸ナトリウム 10 g を水に溶かして 50 mL とし、必要ならばろ過する。用時製する。

ヘキサヒドロキサンチモン（V）酸カリウム $K_2H_2Sb_2O_7 \cdot 4H_2O$ [K 8778 : 1980, 1 級]

ヘキサヒドロキサンチモン（V）酸カリウム試液 ヘキサヒドロキサンチモン（V）酸カリウム 2 g に水 100 mL を加え、約 5 分間煮沸した後、速やかに冷却する。この液に水酸化カリウム溶液 (3 → 20) 10 mL を加え、1 日放置した後、ろ過する。

ヘキサン ヘキサメチレンテトラミン を見よ。

ヘキサメチレンテトラミン $(CH_2)_6N_4$ [K 8847, 特級]

ヘキサメチレンテトラミン試液 一般試験法のプラスチック製医薬品容器試験法 を見よ。

ヘキサン C_6H_{14} [K 8848, 特級]

ヘキサン、液体クロマトグラフ用 $CH_3(CH_2)_4CH_3$ 無色透明の液でエタノール (95)、クロロホルム、ジエチルエーテル及びベンゼンと混和する。沸点：約 69 °C

純度試験

(1) 純度試験 本品につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法により吸光度を測定するとき、波長 210 nm で 0.3 以下、250 ~ 400 nm で 0.01 以下である。

(2) 過酸化物 あらかじめ水 100 mL 及び希硫酸 25 mL を混和した液にヨウ化カリウム溶液 (1 → 10) 25 mL 及び本品 20 g を加える。これを密栓して振り混ぜた後、15 分間暗所に放置する。この液をよく振り混ぜながら 0.01 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する(指示薬：デンプン試液 1 mL)。同様の方法で空試験を行い、補正する(0.0005 % 以下)。

n-ヘキサン、液体クロマトグラフ用 ヘキサン、液体クロマトグラフ用 を見よ。

ヘキサン、吸収スペクトル用 [K 8848, 特級] ただし、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法により吸光度を測定するとき、波長 220 nm で 0.10 以下、260 nm で 0.02 以下である。また波長 260 ~ 350 nm において、吸収を認めない。

n-ヘキサン、吸収スペクトル用 ヘキサン、吸収スペクトル用 を見よ。

ヘキサン、生薬純度試験用 [K 8848, 特級] ただし、ヘキサン 300.0 mL を量り、減圧、40 °C 以下で濃縮し、ヘキサンを加えて正確に 1 mL とし、試料溶液とする。別に γ -BHC 2.0 mg をヘキサンに溶かし、正確に 100 mL とする。この液 1 mL を正確に量り、ヘキサンを加えて正確に 100 mL とする。更にこの液 2 mL を正確に量り、ヘキサンを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液 (1) とする。試料溶液及び標準溶液 (1) 1 μ L につき、次の操作条件でガスクロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液の溶媒以外のピークの合計面積は、標準溶液 (1) の γ -BHC のピーク面積より大きくない。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「ニンジン末」の純度試験 (3) の操作条件を準用する。

検出感度：標準溶液 (1) 1 mL を正確に量り、ヘキサンを加えて正確に 20 mL とし、標準溶液 (2) とする。標準溶液 (2) 1 μ L から得た γ -BHC のピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 (1) 1 μ L から得た γ -BHC のピーク高さがフルスケールの 20 % 前後となるように調

整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後から γ -BHC の保持時間の約 3 倍の範囲

1-ヘキサンスルホン酸ナトリウム $C_6H_{13}NaO_3S$ 白色の結晶又は結晶性の粉末である。

乾燥減量 3.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 2 時間)。

含量 98.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.4 g を精密に量り、水 25 mL に溶かし、カラムクロマトグラフ用強酸性イオン交換樹脂 (246 ~ 833 μm, H 型) 15 ~ 20 mL を内径約 11 mm、高さ約 500 mm のクロマトグラフ管に充てんしたクロマトグラフ柱に入れ、1 分間 5 ~ 10 mL の速度で流す。次にクロマトグラフ柱を水 5 mL ずつで 1 分間 5 ~ 10 mL の速度で 5 回洗う。洗液は先の流出液に合わせ、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬：フェノールフタレン試液 3 滴)。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL

= 18.822 mg $C_6H_{13}NaO_3S$

ヘパリンナトリウム [医薬品各条]

ペプシン、含糖 含糖ペプシン を見よ。

ヘプタン $CH_3(CH_2)_5CH_3$ [K 9701, 特級]

1-ヘプタンスルホン酸ナトリウム $C_7H_{15}NaO_3S$ 白色の結晶又は結晶性の粉末である。

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

乾燥減量 3.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 3 時間)。

含量 98.0 % 以上。定量法 本品を乾燥し、その約 0.4 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、カラムクロマトグラフ用強酸性イオン交換樹脂 (425 ~ 600 μm, H 型) 10 mL を内径 9 mm、高さ 160 mm のクロマトグラフ管に充てんしたクロマトグラフ柱に入れ、1 分間約 4 mL の速度で流す。次にクロマトグラフ柱を水 150 mL を用いて 1 分間約 4 mL の速度で洗う。洗液は先の流出液に合わせ、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬：プロモチモールブルー試液 10 滴)。ただし、滴定の終点は液の黄色が青色に変わるときとする。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL

= 20.225 mg $C_7H_{15}NaO_3S$

ペプトン 微生物試験用に製造したもの。

ペプトン、カゼイン製 灰黄色の粉末で、特異なにおいがあるが腐敗臭はない。水に溶けるが、エタノール (95) 又はジエチルエーテルに溶けない。

乾燥減量 7 % 以下 (0.5 g, 105 °C, 恒量)。

強熱残分 15 % 以下 (0.5 g)。

消化度 本品 1 g を水 10 mL に溶かし、試料溶液として次の試験を行う。

(1) 試料溶液 1 mL をとり、希エタノール 10 mL に酢酸 (100) 1 mL を加えた液 0.5 mL を層積するとき、境界面に輪帯又は沈殿を生じない。また、この液を振り混ぜるとき混濁しない。

(2) 試料溶液 1 mL に硫酸亜鉛七水和物飽和溶液 4 mL を加えるとき、少量の沈殿を生じる (プロテオース)。

(3) (2) の混液をろ過し、ろ液 1 mL に水 3 mL 及び臭素試液 4 滴を加えるとき、液は赤紫色を呈する。

窒素含量 10 % 以上 (105 °C, 恒量、乾燥後、窒素定量法)。

ペプトン、ゼラチン製 微生物試験用に製造したもの。

ペプトン、ダイズ製 微生物試験用に製造したもの。

ペプトン、肉製 微生物試験用に製造したもの。

ペペソ緩衝液、pH 7.5 N -2-ヒドロキシエチルピペラジン- N' -2-エタンスルホン酸 2.38 g を水 90 mL に溶かし、5 mol/L 水酸化ナトリウム試液を加えて pH を 7.5 に調整した後、水を加えて 100 mL とする。

ペヘン酸メチル $C_{22}H_{46}O_2$ 白色のリン片状結晶又は粉末で、におい及び味はない。アセトン、クロロホルム又はジエチルエーテルに溶ける。

融点 54 °C

けん化価 155.5 ~ 158.5

ヘマトキシリン $C_{16}H_{14}O_6 \cdot nH_2O$ 白色又は淡黄色~帶褐色の結晶又は結晶性粉末で、温湯又はエタノール (95) にやや溶けやすく、冷水に溶けにくい。

強熱残分 0.1 % 以下 (1 g)。

ヘマトキシリン試液 ヘマトキシリン 1 g をエタノール (99.5) 12 mL に溶かす。別に硫酸カリウムアルミニウム十二水和物 20 g を温湯 200 mL に溶かし、冷後、ろ過する。両液を調製 24 時間後に合わせ、広口瓶に入れ、開栓のまま 8 時間放置後、ろ過する。

ヘリウム He 99.995 vol% 以上。

ペルオキシダーゼ 西洋ワサビから得たもので、赤褐色の粉末である。

本品は水に溶けやすい。本品 1 mg は約 250 単位を含む。ただし、本品の 1 単位はピロガロールと過酸化水素を基質にして、pH 6.0, 20 °C において 20 秒に 1 mg のペルブロガリンを生成する酵素量とする。

ペルオキシダーゼ測定用基質液 過酸化水素 (30) 0.195 mL、リン酸水素二ナトリウム十二水和物 8.38 g 及びクエン酸一水和物 1.41 g を水に溶かし、300 mL とする。用時、この液 15 mL に α -フェニレンジアミン二塩酸塩 13 mg を溶かす。

ペルオキシダーゼ標識プラジキニン 西洋ワサビ由来ペルオキシダーゼを結合したプラジキニンを pH 7.0 のゼラチン・リン酸塩緩衝液に溶かした、無色~淡褐色透明の液である。

ペルオキシダーゼ標識プラジキニン試液 ペルオキシダーゼ標識プラジキニン 0.08 mL、四ホウ酸ナトリウム十水和物 8 mg、ウシ血清アルブミン 8 mg 及び pH 7.0 のゼラチン・リン酸塩緩衝液 0.8 mL に水を加えて 8 mL とした溶液の凍結乾燥品に、水 8 mL を加えて溶かす。用時製する。

ペルオキソ二硫酸アンモニウム $(NH_4)_2S_2O_8$ [K 8252, 特級]

10 % ペルオキソ二硫酸アンモニウム試液 ペルオキソ二硫酸アンモニウム 1 g を水に溶かし、10 mL とする。

ペルオキソ二硫酸カリウム $K_2S_2O_8$ [K 8253, 特級]

ペルゲニン、薄層クロマトグラフ用 $C_{14}H_{16}O_6 \cdot nH_2O$ 白色の結晶又は結晶性の粉末である。エタノール (95) に溶けやすく、水にやや溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けない。

融点 131 ~ 133 °C, 234 ~ 236 °C (二重融点).

純度試験 類縁物質 本品 1.0 mg をメタノール 1 mL に正確に溶かした液 20 μL につき、「アカメガシワ」の確認試験を準用し、試験を行うとき、 R_f 値約 0.5 の主スポット以外のスポットを認めない。

ベンジルアルコール $C_6H_5CH_2OH$ [K 8854, 特級]

p-ベンジルフェノール $C_6H_5CH_2C_6H_4OH$ 白色~微黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

融点 80 ~ 85 °C

ベンジルペニシリンカリウム $C_{16}H_{17}KN_2O_4S$ [医薬品各条、「ベンジルペニシリンカリウム」]

ベンズアルデヒド C_6H_5CHO [K 8857, 特級]

ベンゼン C_6H_6 [K 8858, 特級]

N-*α*-ベンゾイル-L-アルギニンエチル塩酸塩 $C_{15}H_{22}N_4O_3 \cdot HCl$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、水又はエタノール (95) に溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けにくい。

融点 129 ~ 133 °C

溶状 本品 0.1 g に水 20 mL を加えて溶かすとき、液は無色透明である。

他のアミノ酸 本品 0.1 g をとり、水 6 mL を加えて溶かし、この液に塩酸 4 mL を加え、沸騰水浴中で 5 分間加熱分解し、試料溶液とする。この液につき、ろ紙クロマトグラム法により試験を行う。試料溶液 5 μL をろ紙上にスポットする。次に水/酢酸 (100) /1-ブタノール混液 (5 : 4 : 1) を展開溶媒とし、約 30 cm 展開した後、ろ紙を風乾する。これにニンヒドリンのアセトン溶液 (1→50) を均等に噴霧した後、90 °C で 10 分間加熱するとき、紫色の単一のスポットを認める。

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: -15.5 ~ -17.0 ° (2.5 g, 水, 50 mL, 100 mm).

含量 99.0 % 以上。定量法 本品約 0.6 g を精密に量り、水 50 mL を加えて溶かし、必要ならば 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で中和し、ジクロロフルオレセイン試液 4 滴を加え、0.1 mol/L 硝酸銀液で滴定する。

0.1 mol/L 硝酸銀液 1 mL = 34.283 mg $C_{15}H_{22}N_4O_3 \cdot HCl$

N-*α*-ベンゾイル-L-アルギニンエチル試液 **N**-*α*-ベンゾイル-L-アルギニンエチル塩酸塩 0.07 g に新たに煮沸し冷却した水を加えて溶かし、正確に 10 mL とする。

N-*α*-ベンゾイル-L-アルギニン-4-ニトロアニリド塩酸塩

$C_{19}H_{22}N_6O_4 \cdot HCl$ 淡黄色の結晶性粉末である。

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: +45.5 ~ +48.0 ° (乾燥後, 0.5 g, N,

N-ジメチルホルムアミド, 25 mL, 100 mm)

純度試験 類縁物質 本品 0.20 g を *N,N*-ジメチルホルムアミド 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラ法により試験を行う。試料溶液 10 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-ブタノール/水/酢酸 (100) 混液 (4 : 1 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これをヨウ素で発色するとき、单一のスポットを認める。

N-*α*-ベンゾイル-L-アルギニン-4-ニトロアニリド試液

N-*α*-ベンゾイル-L-アルギニン-4-ニトロアニリド塩酸塩 0.1 g を水に溶かし、100 mL とする。

p-ベンゾキノン $C_6H_4O_2$ 黄色~黄褐色の結晶又は結晶性の粉末で、刺激性のにおいがある。エタノール (95) 又はジエチルエーテルにやや溶けやすく、水に溶けにくい。本品は光により徐々に黒褐色に変化する。

融点 111 ~ 116 °C

含量 98.0 % 以上。定量法 本品約 0.1 g を精密に量り、ヨウ素瓶に入れ、水 25 mL 及び薄めた硫酸 (1→15) 25 mL を正確に加え、ヨウ化カリウム 3 g を加えて振り混ぜて溶かし、0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する (指示薬: デンプン試液 3 mL)。同様の方法で空試験を行う。

0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液 1 mL = 5.405 mg $C_6H_4O_2$

p-ベンゾキノン試液 **p**-ベンゾキノン 1 g を酢酸 (100) 5 mL に溶かし、エタノール (95) を加えて 100 mL とする。

ベンゾフェノン $C_6H_5COC_6H_5$ [K 8861 : 1961, 特級]

ペンタシアノアンミン鉄 (II) 酸ナトリウム **n** 水和物 $Na_3[Fe(CN)_6NH_3] \cdot nH_2O$ [K 8689, 1 級]

ペンタシアノニトロシル鉄 (III) 酸ナトリウム試液 ペンタシアノニトロシル鉄 (III) 酸ナトリウム二水和物 1 g を水に溶かし、20 mL とする。用時製する。

ペンタシアノニトロシル鉄 (III) 酸ナトリウム二水和物 $Na_2[Fe(CN)_6(NO)] \cdot 2H_2O$ [K 8722, 特級]

ベンタン $CH_3(CH_2)_3CH_3$ 無色透明の液体である。

比重 d_{20}^{20} : 0.620 ~ 0.630

蒸留試験 35.5 ~ 37 °C, 98 vol% 以上。

1-ペンタスルホン酸ナトリウム $C_6H_{11}NaO_5S$ 白色の結晶又は結晶性の粉末である。水に溶けやすく、アセトニトリルにはほとんど溶けない。

純度試験 溶状 本品 1.0 g を水 10 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

水分 3.0 % 以下 (0.2 g).

含量 換算した脱水物に対し、99.0 % 以上。定量法 本品約 0.3 g を精密に量り、水 50 mL に溶かし、クロマトグラフ柱 (425 ~ 600 μm のカラムクロマトグラフ用強酸性イオン交換樹脂 (H型) 10 mL を内径約 9 mm, 高さ約 160 mm のクロマトグラフ管に注入して調製したもの) に入れ、1 分間約 4 mL の速度で流出する。次に水 50 mL を用いて 1 分間約 4 mL の速度でクロマトグラフ柱を洗い、更に水 100 mL で同様にしてクロマトグラフ柱を洗う。洗液は先の流出液に合わせ、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する (指示薬: ブロモチモールブルー試液 10 滴)。ただし、滴定の終点は液の黄色が青色に変わるとする。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 1 mL
= 17.420 mg $C_6H_{11}NaO_5S$

ホウ砂 四ホウ酸ナトリウム十水和物 見よ。

ホウ酸 H_3BO_3 [K 8863, ほう酸, 特級]

0.2 mol/L ホウ酸・0.2 mol/L 塩化カリウム試液、緩衝液用 ホウ酸 12.376 g 及び塩化カリウム 14.911 g を水に溶かし、1000 mL とする。

ホウ酸・塩化カリウム・水酸化ナトリウム緩衝液、pH 9.0

緩衝液用 0.2 mol/L ホウ酸・0.2 mol/L 塩化カリウム試液

50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 21.30 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

ホウ酸・塩化カリウム・水酸化ナトリウム緩衝液, pH 9.2
緩衝液用 0.2 mol/L ホウ酸・0.2 mol/L 塩化カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 26.70 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

ホウ酸・塩化カリウム・水酸化ナトリウム緩衝液, pH 9.6
緩衝液用 0.2 mol/L ホウ酸・0.2 mol/L 塩化カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 36.85 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

ホウ酸・塩化カリウム・水酸化ナトリウム緩衝液, pH 10.0
緩衝液用 0.2 mol/L ホウ酸・0.2 mol/L 塩化カリウム試液 50 mL に 0.2 mol/L 水酸化ナトリウム液 43.90 mL 及び水を加えて 200 mL とする。

ホウ酸・水酸化ナトリウム緩衝液, pH 8.4 ホウ酸 24.736 g を 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液に溶かし、正確に 1000 mL とする。

ホウ酸ナトリウム 四ホウ酸ナトリウム十水和物 見よ。

ホウ酸ナトリウム, pH 測定用 四ホウ酸ナトリウム十水和物, pH 測定用 見よ。

ホウ酸・メタノール緩衝液 ホウ酸 2.1 g を正確に量り、水酸化ナトリウム試液 28 mL を加えて溶かし、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 1 容量とメタノール 1 容量を混和し、振り混ぜる。

抱水クロラール $\text{CCl}_3\text{CH}(\text{OH})_2$ [K 8869 : 1961, 1 級]

抱水クロラール試液 抱水クロラール 5 g を水 3 mL に溶かす。

抱水ヒドラジン ヒドラジン一水和物 見よ。

ホスゲン紙 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド 5 g 及びジフェニルアミン 5 g をエタノール (99.5) 100 mL に溶かす。この液に幅 5 cm のろ紙を浸し、暗所で清浄な空気中に下りて自然乾燥する。紙片の上下端 5 cm ずつを切り捨て、残部を長さ 7.5 cm ずつの紙片に切って製する。

貯法 遮光した気密容器に保存する。黄変したものは用いない。

ホスフィン酸 H_3PO_2 [K 8440, 1 級]

ポテトエキス 微生物試験用に製造したもの。

ホノキオール $\text{C}_{18}\text{H}_{38}\text{O}_2 \cdot x\text{H}_2\text{O}$ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。

純度試験 本品 1 mg を量り、移動相に溶かして正確に 10 mL とし、試料溶液とする。この液 10 μL につき、「コウボク」の成分含量測定法を準用し、液体クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液のホノキオール以外のピークの溶媒ピークの面積を除いた全ピーク面積の $\frac{1}{10}$ より大きくなれ。

ポリアミド、薄層クロマトグラフ用 薄層クロマトグラフ用に製造したもの。

ポリアミド、薄層クロマトグラフ用(蛍光剤入り) 薄層クロマトグラフ用ポリアミドに蛍光剤を加えたもの。

ポリアルキレングリコールモノエーテル、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

ポリエチレングリコールエステル化物、ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

ポリエチレングリコール 400, ガスクロマトグラフ用 ガスク

ロマトグラフ用に製造したもの。

ポリエチレングリコール 6000, ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

ポリエチレングリコール 15000-ジエポキシド, ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

ポリエチレングリコール 20 M, ガスクロマトグラフ用 ガスクロマトグラフ用に製造したもの。

ポリオキシエチレン (40) オクチルフェニルエーテル オクチルフェノールに酸化エチレンを付加重合して得られる。無色又は白色～微黄色の液、ワセリン様又はろう状の物質で、わずかに特異なにおいがある。

溶状 本品 1 g を水 20 mL に溶かすとき、液は透明である。

比重 d_{4}^{25} : 1.10 ~ 1.11

pH 7.0 ~ 9.5 (5 w/v%, 25 °C).

ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 60 ヒマシ油に水素を添加して得た硬化油に、酸化エチレンを付加重合させて得た非イオン性界面活性剤で、酸化エチレンの平均付加モル数は約 60 である。白色～微黄色のワセリンよう又はろうようの物質で、わずかに特異なにおいがあり、味はやや苦い。酢酸エチル又はクロロホルムに極めて溶けやすく、エタノール (95) に溶けやすく、水に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

確認試験

(1) 本品 0.5 g に水 10 mL 及びチオシアニ酸アンモニウム・硝酸コバルト試液 5 mL を加えてよく振り混ぜ、更にクロロホルム 5 mL を加え、振り混ぜて放置するとき、クロロホルム層は青色を呈する。

(2) 本品 0.2 g に硫酸水素カリウム 0.5 g を加えて加熱するとき、アクロレインようの刺激臭を発する。

(3) 本品 0.5 g に水 10 mL を加えて振り混ぜ、臭素試液 5 滴を加えるとき、試液の色は消えない。

凝固点 30 ~ 34 °C

pH 本品 1.0 g に水 20 mL を加え、加温して溶かした液の pH は 3.6 ~ 6.0 である。

酸価 1.0 以下。

けん化価 41 ~ 51

水酸基価 39 ~ 49

純度試験

(1) 溶状 本品 1.0 g をエタノール (95) 20 mL に溶かすとき、液は無色透明である。

(2) 重金属 本品 1.0 g をとり、第2法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (20 ppm 以下)。

(3) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第3法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

水分 2.0 % 以下 (1 g).

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g).

貯法 気密容器。

ポリソルベート 20 主としてモノラウリン酸ソルビタンに酸化エチレンを付加重合して得られる。微黄色～黄色の液で、わずかに特異なにおいがある。

確認試験

(1) 本品 0.5 g に水 10 mL 及び水酸化ナトリウム試液 10 mL を加え、5 分間煮沸した後、希塩酸を加えて酸性にするとき、油分を分離する。

(2) 本品 0.5 g に水 10 mL を加えて振り混ぜ、臭素試液 5 滴を加えるとき、試液の赤色は、消えない。

(3) 本品 5 g をとり、けん化価測定法に準じてけん化した後、エタノールをじゅうぶんに留去する。これに水 50 mL を加えて溶かした後、塩酸酸性(メチルオレンジ)とし、ジエチルエーテル 30 mL で 2 回抽出する。ジエチルエーテル層を合わせ、水 20 mL ずつで洗液が中性となるまで洗った後、水浴上でジエチルエーテルを留去し、残留物の酸価を測定するとき 275 ~ 285 である。ただし、けん化には 0.5 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 50 mL を用いる。

酸価 4.0 以下。

けん化価 43 ~ 55

乾燥減量 3.0 % 以下 (5 g, 105 °C, 1 時間)。

強熱残分 本品 3 g を精密に量り、初めは弱く加熱し、徐々に赤熱 (800 ~ 1200 °C) して完全に灰化する。炭化物が残るときは、熱湯を加えて浸出し、定量分析用ろ紙 (5 種 C) を用いてろ過し、残留物をろ紙と共に赤熱する。これにろ液を加えた後、蒸発乾固し、炭化物がなくなるまで注意しながら赤熱する。なお、炭化物が残るときは、エタノール (95) 15 mL を加え、ガラス棒で炭化物を碎き、エタノールを燃焼させ、更に注意しながら赤熱する。これをデシケーター(シリカゲル)中で放冷した後、質量を精密に量るとき、残分は 1.0 % 以下である。

ポリソルベート 80 [医薬品各条、第二部]

ポリビニルアルコール (-CH₂CHOH-)，[K 9550, 特級]

ポリビニルアルコール I 無色～白色若しくは微黄色の粒又は粉末で、においはないか、又はわずかに酢酸臭があり、味はない。エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。本品に水を加えて加熱するとき、透明な粘性の液となる。本品は吸湿性である。

粘度 25.0 ~ 31.0 mm²/s 本品を乾燥し、その 4.000 g を量り、水 95 mL を加え、30 分間放置した後、冷却器を付け水浴上で 2 時間かき混ぜながら加熱して溶かす。冷後、水を加えて 100.0 g とし、混和する。静置して泡を除き、20 ± 0.1 °C で粘度測定法第 1 法によって試験を行う。

pH 本品 1.0 g を水 25 mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 8.0 である。

溶状 本品 1.0 g を水 20 mL に加え、よくかき混ぜて分散させた後、60 ~ 80 °C で 2 時間加温し、冷却するとき、液は無色透明である。

けん化度 98.0 ~ 99.0 mol% 本品を乾燥し、その約 3.0 g を精密に量り、共栓三角フラスコに入れ、水 100 mL を加え、水浴上で加熱して溶かす。冷後、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 25 mL を正確に加え、密栓して 2 時間放置する。次に 0.05 mol/L 硫酸 30 mL を正確に加えてよく振り混ぜた後、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬：フェノールフタレン試液 3 滴)。同様の方法で空試験を行い、補正する。ただし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量が 25 mL 以上の場合、試料約 2.0 g をとる。

$$\text{けん化度 (mol\%)} = 100 - \frac{44.05A}{60.05 - 0.42A}$$

$$A = \frac{0.6005 \times (a - b)f}{\text{試料の量 (g)}}$$

a : 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

b : 空試験における 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

f : 0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液のファクター

ポリビニルアルコール II 無色～白色若しくは微黄色の粒又は粉末で、においはないか、又はわずかに酢酸臭があり、味はない。エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。本品に水を加えて加温するとき、透明な粘性の液となる。本品は吸湿性である。

粘度 4.6 ~ 5.4 mm²/s 本品を乾燥し、その 4.000 g を量り、水 95 mL を加え、30 分間放置した後、60 ~ 80 °C で 2 時間かき混ぜて溶かす。冷後、水を加えて 100.0 g とし、混和する。静置して泡を除き、20 ± 0.1 °C で粘度測定法第 1 法によって試験を行う。

pH 本品 1.0 g を水 25 mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 8.0 である。

溶状 本品 1.0 g を水 20 mL に加え、よくかき混ぜて分散させた後、水浴上で 2 時間加熱し、冷却するとき、液は無色透明である。

けん化度 86.5 ~ 89.5 mol% 本品を乾燥し、その約 2.0 g を精密に量り、共栓三角フラスコに入れ、水 100 mL を加え、2 時間かき混ぜながら加温する。冷後、0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液 25 mL を正確に加え、密栓して 2 時間放置する。次に 0.25 mol/L 硫酸 30 mL を正確に加えてよく振り混ぜた後、0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液で滴定する(指示薬：フェノールフタレン試液 3 滴)。同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$\text{けん化度 (mol\%)} = 100 - \frac{44.05A}{60.05 - 0.42A}$$

$$A = \frac{3.0025 \times (a - b)f}{\text{試料の量 (g)}}$$

a : 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

b : 空試験における 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量 (mL)

f : 0.5 mol/L 水酸化ナトリウム液のファクター

ポリビニルアルコール試液 ポリビニルアルコール 0.50 g を正確に量り、水に溶かし、正確に 100 mL とする。

ホルマリン ホルムアルデヒド液 見よ。

ホルマリン試液 ホルムアルデヒド液試液 見よ。

ホルマリン・硫酸試液 ホルムアルデヒド液・硫酸試液 見よ。

ホルムアミド HCONH₂ [K 8873, 特級]

ホルムアミド、水分測定用 HCONH₂ [K 8873, 特級] ただし、本品 1 g 中の水分は 1 mg 以下とする

ホルムアルデヒド液 HCHO [K 8872, 特級]

ホルムアルデヒド液試液 ホルムアルデヒド液 0.5 mL に水を加えて 100 mL とする。

ホルムアルデヒド液・硫酸試液 ホルムアルデヒド液 1 滴を

硫酸 1 mL に加える。用時製する。

マイクロプレート洗浄用リン酸塩緩衝液 リン酸塩緩衝液、マイクロプレート洗浄用 見よ。

前処理用アミノプロピルシリカゲル アミノプロピルシリカゲル、前処理用 見よ。

マグネシア試液 塩化マグネシウム六水和物 5.5 g 及び塩化アンモニウム 7 g を水 65 mL に溶かし、アンモニア試液 35 mL を加え、瓶に入れて密栓し数日間放置してろ過する。液が澄明でないときは使用前にろ過する。

マグネシウム Mg [K 8875, 特級]

マグネシウム粉末 Mg [K 8876, 特級]

マグネシウム末 マグネシウム粉末 見よ。

マグネソン [K 8879, 特級]

マグネソン試液 マグネソン 0.1 g を N,N-ジメチルホルムアミド 100 mL に溶かす。

マグノロール、成分含量測定用 C₁₈H₁₈O₂ 白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。メタノール又はジエチルエテルに溶けやすく、水にほとんど溶けない。融点：約 102 °C。
吸光度 E_{1cm}^{1%} (290 nm) : 270 ~ 293 (0.01 g, メタノール, 500 mL)。ただし、デシケーター（シリカゲル）で 1 時間以上乾燥したもの。

純度試験 類縁物質

(1) 本品 1.0 mg をとり、メタノール 1 mL を正確に加えて溶かした液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。この液 10 μL を薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/アセトン/酢酸 (100) 混液 (20 : 15 : 1) を展開浴媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長 254 nm）を照射すると、R_f 値約 0.5 の主スポット以外のスポットを認めない。

(2) 本品 5.0 mg を移動相 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 100 mL とし、標準溶液 (1) とする。試料溶液及び標準溶液 (1) 10 μL につき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、試料溶液のマグノロール以外のピークの合計面積は標準溶液 (1) のマグノロールのピーク面積より大きくない。

操作条件

検出感度及び面積測定範囲以外の操作条件は、「コウボク」の成分含量測定法の操作条件を準用する。

検出感度：標準溶液 (1) 1 mL を正確に量り、移動相を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液 (2) とする。標準溶液 (2) 10 μL から得たマグノロールのピーク面積が自動積分法により測定されるように調整する。また、標準溶液 (1) 10 μL から得たマグノロールのピーク高さがフルスケールの約 20 % になるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からマグノロールの保持時間の約 3 倍の範囲

麻酔用エーテル エーテル、麻酔用 見よ。

マラカイトグリーン マラカイトグリーン・シウ酸塩 見よ。

マラカイトグリーン・シウ酸塩 C₆₂H₅₄N₄O₁₂ [K 8878, マラカイトグリーン（しゅう酸塩）、特級]

マルトース C₁₂H₂₂O₁₁ • H₂O [K 8883 : 1992, 特級]

マレイン酸 C₄H₄O₄ [K 8884, 特級]

マレイン酸クロルフェニラミン C₁₆H₁₉ClN₂ • C₄H₄O₄ [医薬品各条]

マレイン酸ペルフェナジン、定量用 [医薬品各条、「マレイン酸ペルフェナジン」ただし、乾燥したものを定量するとき、マレイン酸ペルフェナジン (C₂₁H₂₆ClN₃OS • 2C₄H₄O₄) 99.0 % 以上を含むもの]

マレイン酸メチルエルゴメトリン、定量用 C₂₀H₂₅N₃O₂ • C₄H₄O₄ [医薬品各条、「マレイン酸メチルエルゴメトリン」ただし、乾燥したものを定量するとき、マレイン酸メチルエルゴメトリン (C₂₀H₂₅N₃O₂ • C₄H₄O₄) 99.0 % 以上を含むもの]

マロン酸ジメチル C₆H₈O₄ 無色～微黄色透明な液体。
比重 d₄²⁰ : 1.152 ~ 1.162
水分 0.3 % 以下。
強熱残分 0.1 % 以下。

D-マンニトール C₆H₁₄O₆ [医薬品各条、「D-マンニトール」]

ミオグロビン ウマ心筋より得られたヘムたん白質で、白色の結晶性粉末であり、ミオグロビンは総たん白質の 95 % 以上である。

ミツロウ [医薬品各条、第二部]

ミリスチン酸イソプロピル C₁₇H₃₄O₂ 無色透明の油状液体で、においはない。約 5 °C で凝固する。90 % アルコールに溶け、多くの有機溶媒及び固体油に混じりやすく、水、グリセリン及びプロピレンギリコールには溶けない。

屈折率 n_D²⁰ : 1.432 ~ 1.436
比重 d₂₀²⁰ : 0.846 ~ 0.854
けん化価 202 ~ 212
酸価 1 以下。
ヨウ素価 1 以下。
強熱残分 0.1 % 以下 (1 g)。

ミリスチン酸イソプロピル、無菌試験用 C₁₇H₃₄O₂ ミリスチン酸イソプロピル 100 mL を遠心沈殿管に入れ、2 回蒸留した水 100 mL を加え、10 分間激しく振り混ぜる。次に毎分 1800 回転で 20 分間遠心分離し、上澄液（ミリスチン酸イソプロピル層）を分取する。残りの水層の pH が 5.5 以上のとき、上澄液を次のように処理する。20 mm × 20 cm のガラス製カラムに活性アルミニナを 15 cm の高さまで入れ、このカラムに pH 試験に適合したミリスチン酸イソプロピル 500 mL を通す。この際、その通過を適度に保つためにわずかに陽圧にして流した後、更にそのミリスチン酸イソプロピルをろ過滅菌により製する。

無アルデヒドエタノール エタノール、無アルデヒド 見よ。

無菌試験用チオグリコール酸培地 I 一般試験法の無菌試験法 見よ。

無菌試験用チオグリコール酸培地 II 一般試験法の無菌試験法 見よ。

無菌試験用ブドウ糖・ペプトン培地 一般試験法の無菌試験法